

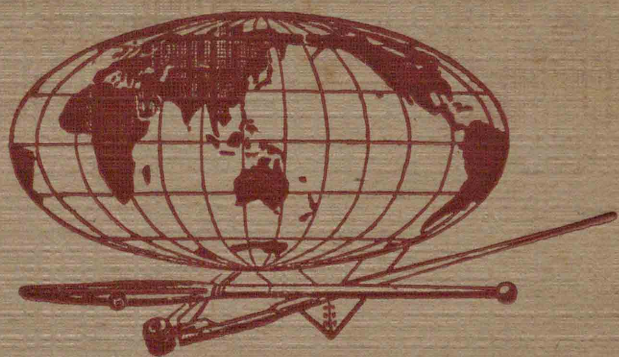
日四廿月二年九正大
濟定檢省部文

教科書文庫
4
293
41-1920
2000024217

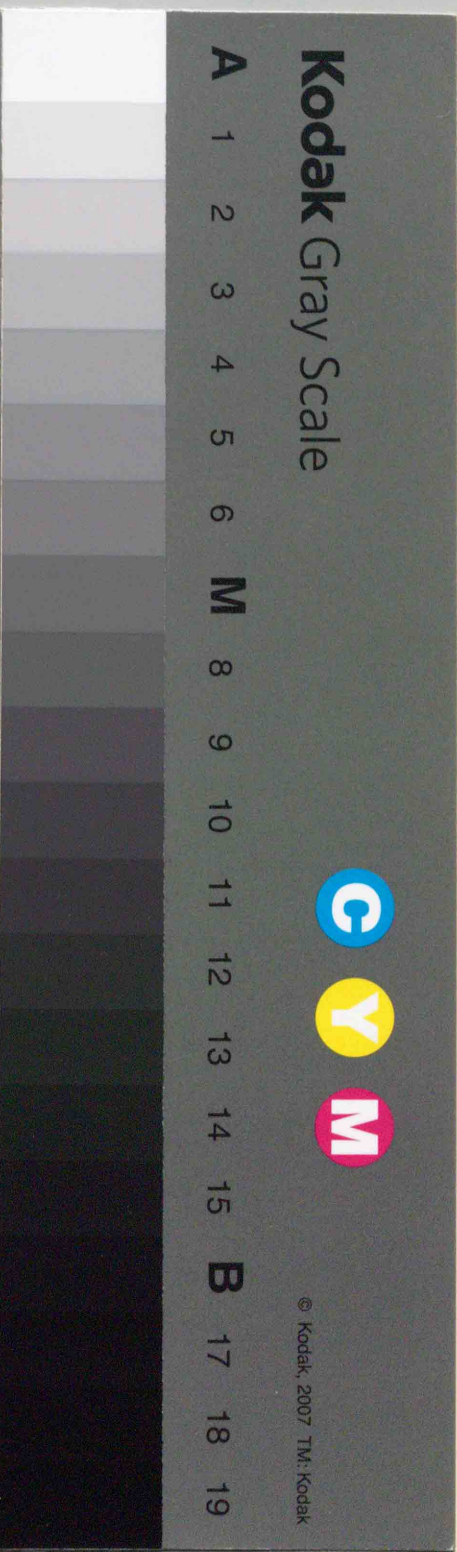
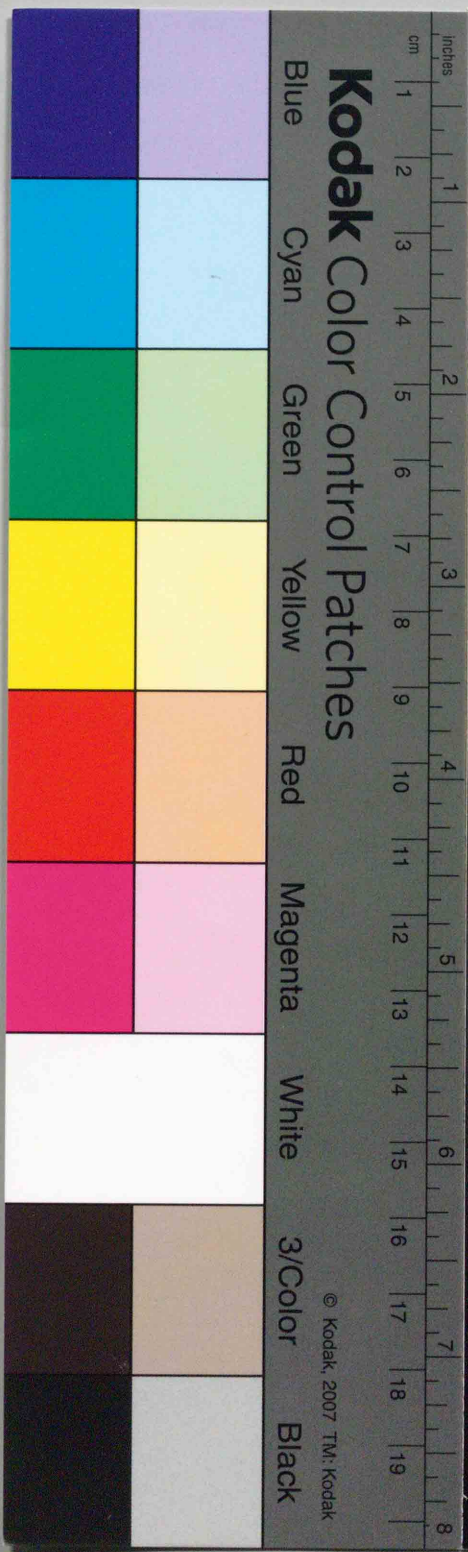
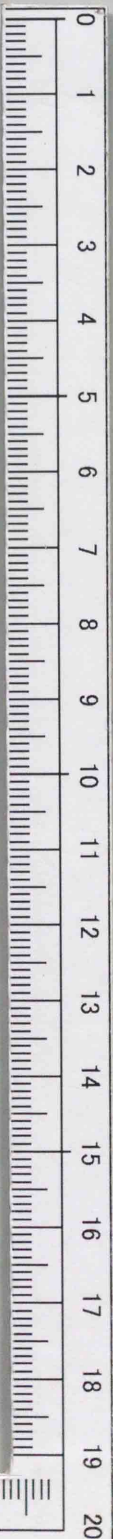
會志同授教理地
纂 編

理地界世

[卷上用校學中]



版藏院書國帝京東



42833

教科書文庫

4
293
41-1920
20000 24217



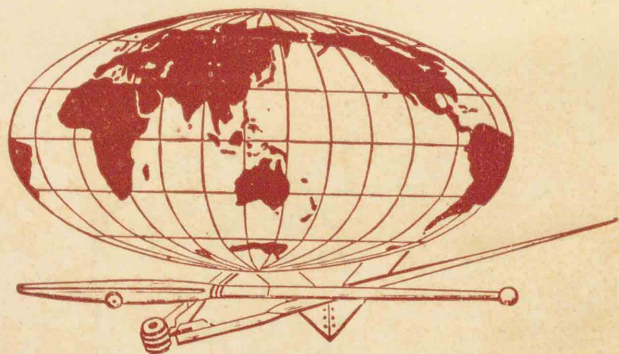
教科書文庫
4
293
41-1920
2000024217

地理教授同志會

編 纂

世界地理

[中學用卷上]



東京帝國書院出版

資料室

375.9
Chi 18

改訂につきての例言

本書の原本は、本春即ち大正九年一二月の頃、世に公にしたるものなり。

公刊當時、既にベルサイユ會議終了し、聯合國對獨逸との講和成立して、世界改造の大勢、略決定し居たりと雖、爾來一年未滿の間に、聯合國對土耳其等の講和成立したることなどありたり。

而して叙上の變遷移動は、寔に些少に止まれども、亦眞に喫緊のことなるが故に、今爰に之を主として改訂し、以て些少なる新事實をも、忽諸に附すべからざるの實を擧げたり。冀くは江湖の諸賢諒焉。

大正九年十二月

地理教授同志會代表者 謹誌



広島大学図書

2000024217



例言

- 一 本書は、中學校の外國地理科用に充つる目的を以て編纂したるものなり。
- 一 本書は、分れて亞細亞洲歐羅巴洲阿弗利加洲北亞米利加洲南亞米利加洲大洋洲及び兩極地方の七編となれり。
- 一 叙上の七編の順序排列の不可なるは、今や殆ど之を疑ふの餘地なきもの、如し、殊に知能の發達せる中學校の第四學年に於て、阿弗利加洲以下の雜物的（除亞米利加合衆國）教材とも稱すべきものを課するは、學生をして、教師を侮蔑せしめ、地理學科を輕視せしむる基因たるや明かなり。然らば之を防止すべく、阿弗利加洲以下の教材を高尙たらしむべきか、是れ比較的必要ならざる知識を、態々必要らしく教授すること、ならん。

一 此の故に著者等は、大洋洲(含兩極)、阿弗利加洲、南亞米利加洲、北亞米利加洲、歐羅巴洲、亞細亞洲の順序によりて記述するを、最も妥當なりと信ず。之に對する有力なる批難、大凡三個あれども、何れも殆ど採用するに足らず。

甲 日本地理の次ぎに、一躍大洋洲を課するは、地名の稱呼困難なるが故に、當を得たるものにあらず……云々

されど學生は、尋常小學地理に於て、既に〳〵稱呼の相當困難なる地名を學習せり。たとひ未だ之を學習せざるとするも、數回の教授後には、忽ち之に慣るゝことあるべし。又よし右の地名に慣るゝこと困難なりとするも、初めに亞細亞洲を教授して、支那地理の漢字の困難なることに想到せば、其の困難の度は、蓋し大差なからん。

乙 近きより遠きに及ぼすとの教授の理論に背反す……云々

コハあまりに教授法に拘泥するの甚しきものたるのみならず、時には、遠きより近きに及ぼすことも、亦教授の逆法として、採用すべき場合あるにあらずや。殊に今や、マリアナ諸島等は、我が委任統治地たるべきが故に、日本地理の續きとして大洋洲を教授すること、強ち不自然たらざるに至りたり。

丙 歐羅巴洲の次ぎに亞細亞洲を課するは、内容の難易を顛倒するものなり……云々

されど東亞は、我が國の活躍すべき地域にして、又利權の影響の大なる地方なり。之を上級に於て詳密に教授するは、最も喫緊の事たるにあらずや。

一 著者等の卑見、右の如しと雖、文部省制定の教授要目は、全然卑見と相反し、それが全國に行はれ居る以上は、止むを得ず、之に従はざるべからざる理由あるが故に、本書の順序、排列は、暫く右の教

授要目によること、せり。

一 而して江湖には、卑見に賛同せらるべき諸賢の多かるべきを察知せしが故に、本書は、別に一冊となしたるものを發行して、以て教授の順序變更に便せんことを期したり。

一 本書の計數に關するものは、英國政家年鑑、日本政府發行各種統計表、東亞同文會發行支那年鑑等によれり。而して都邑左側の數字は、萬を單位としての人口數なり。

一 歐洲大戰の結果は、未だ決定的たらざるもの多し。従つて本書も、尙ほ決定的に移動事項を記述せざりし場合多し。否な之を記述すること能はざりしなり。幸に教授當局者は、大戰の結果の決定につれて、本書を修正しつゝ、教授せられんことを望む。

一 本書の起稿に就ては、現に中等教育の衝に當れる比較的多數人士の手を煩はし、代表者二人、亦其の統一整理に努力して、一は

教授の實際に適せしめ、一は必要なる最新事項を網羅したり。即ち屑々たる小冊子と雖、教科書たる以上は、斯くの如く叮嚀に爲すべき必要あるや勿論ならん。

一 されど本書の内容につきては、尙ほ批評の餘地あるべく、又魯魚河漢の誤謬も多からん。大方の諸君子、叱教斧正の勞を賜はりて、本書を完璧たらしむるあらば、何の光榮、何の幸福か、之に如くものあらん。

地理教授同志會代表者

誌謹

熱望・至囑

本書を教材に供せられて、誤謬・誤植を發見せられしごとに、又教授に不適合なりと認めらるゝ個所ありしごとに、それを教科書中に記入せられて、適當なる機會に、逐一指教せられんこと、千希萬望に堪へざるなり。
是れ豈に、吾等の私益のみに止まらんや、又實に我が教育界の公益なり。爰に謹みて熱望・至囑する所以なり。

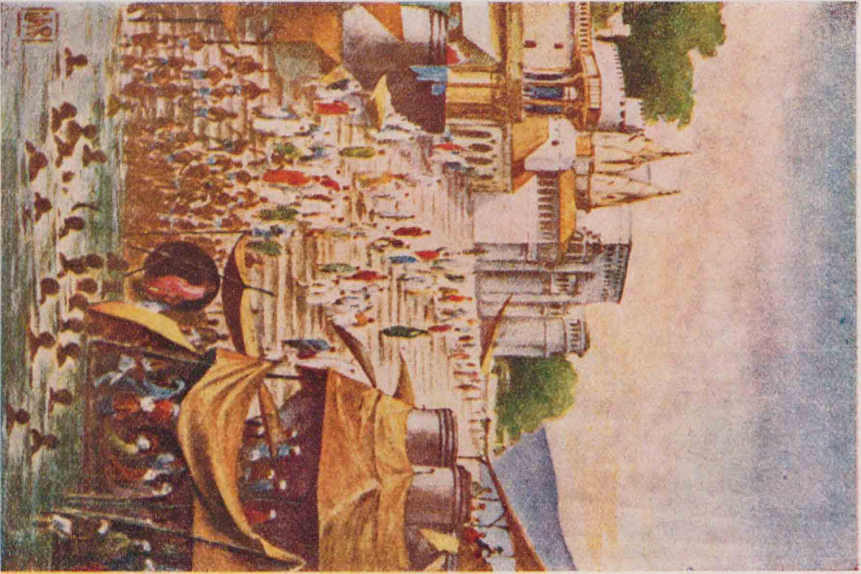
目次

緒言	一
前編 滿洲附東蒙古	三
第一章 地文誌	三
第二章 人文誌	四
第三章 地方誌	八
第四章 日本との關係	一五
第一編 亞細亞洲	一七
第一章 支那	一七
第一節 地文誌	一七
第二節 人文誌	二〇
第三節 地方誌	二七
(甲) 支那本部	二七
(乙) 蒙古	三五
(丙) 新疆	三五

〔丁〕 西藏	七
〔戊〕 青海	八
第二章 印度支那	九
第一節 地文誌	九
第二節 人文誌	三九
第三節 地方誌	四〇
第三章 東印度諸島	四四
第一節 一般誌	四四
第二節 地方誌	四五
第四章 印度	五〇
第一節 地文誌	五〇
第二節 人文誌	五三
第三節 地方誌	五五
第五章 伊蘭地方	五七
第六章 南西亞細亞	六六
第一節 地文誌	六六

第二節 人文誌	六〇
第三節 地方誌	六三
第七章 亞細亞露西亞	六三
〔甲〕 西比利亞	六三
〔乙〕 中亞細亞	六六
〔丙〕 高加索	七〇
第八章 亞細亞洲總括	七一
第一節 地文誌	七一
第二節 人文誌	七五

目次終



浴沐成癡るけ於に河ガヅガの徒教度印るむ拜参にスレナマ度印



(島一の中島諸度印東)島サマカラクの時當裂燻大

世界地理

上卷

地理教授同志會

纂編

緒言

抑も地球の表面たるや、土地の異なるにつれて、其の地勢、其の氣候、其の天産物など、各相異なれり。それを學習すべき外國地理、こゝに於てか趣味多し。

地表に住める約十七億の民衆は、略、五大人種に分れて、多種多様な生活を営めり。又數十の國家を建てて、或は親好を修め、或は文武の競争をなせり。これ等のさまを學習すべき外國地理、いかで趣味多からざらん。

民衆中には國家を建てざる者もあり

入る。遼河は、東蒙古に發源し、^{ハルホ}渾河を納れて遼東灣に注ぐ。氣候は、大陸性にして冬寒夏熱著し。夏季は、屢、豪雨ありて、泥濘^{ドロドロ}膝^{ヒザ}を没し、交通を妨ぐ。冬季は、河湖凍結し、道路積雪して、人馬の往來、夏季よりも却つて盛なり。

第二章 人文誌

産業

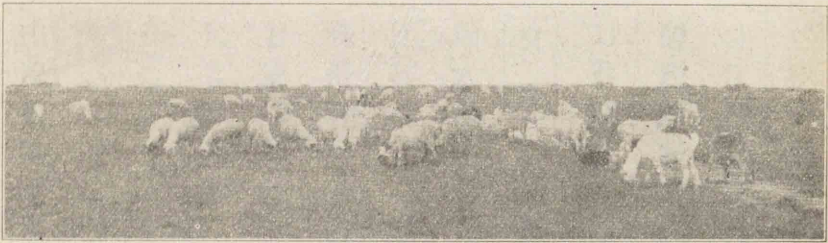
農業を主として、高粱、小麥、粟、大豆の産多く、一般に大農法に則り、遼東半島には、柞蠶^{ササ}の飼育盛なり。東蒙古には、専ら羊、豚、駱駝の牧畜行はる。四圍の山地は、一般に原始的大森林に富み、鴨綠江の上流にては、今や伐採盛なり。海岸には、天日製鹽行はれ、關東廳は、漁鹽の利特に大なり。



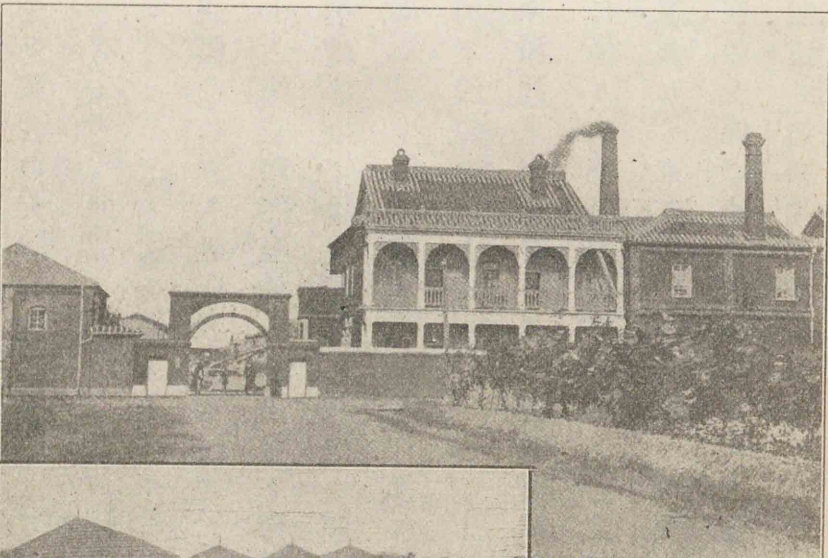
柞樹と蠶

蠶に牛馬驢騾を耕作に使用す

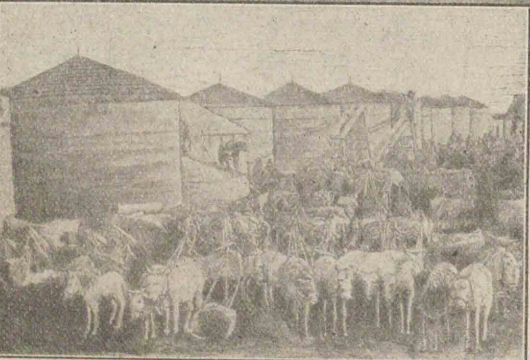
本溪湖にては製鐵も行はる



滿蒙地方の牧羊



在營口其日營本大製鐵油製豆納

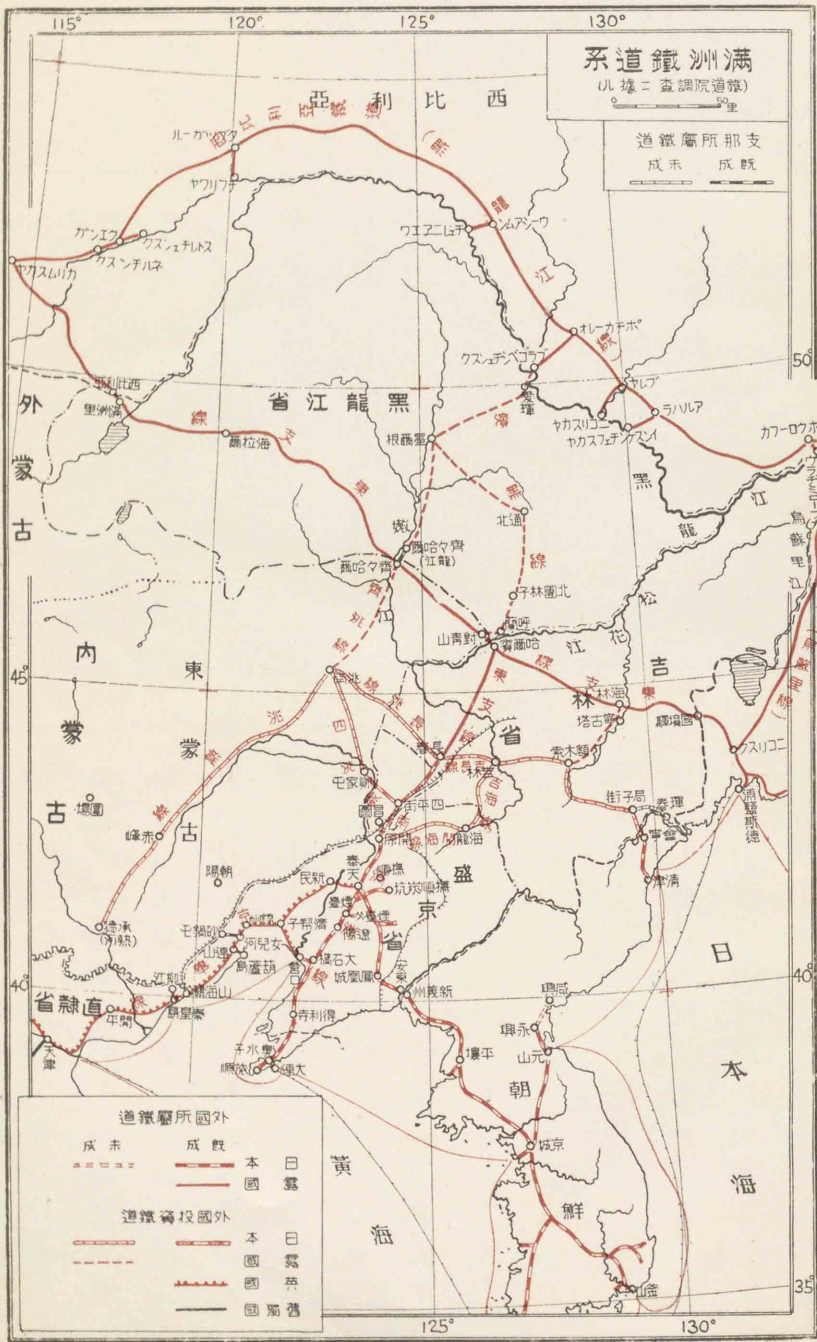


り。鑛産は、撫順、煙臺、本溪湖の石炭、鞍

我が内地の石炭總産額は二千餘萬噸

×曹達興素甜菜糖
×葡萄酒牛肉罐詰等
*燈火用食物調理
用ケリスリン石鹼
ゴムバ、の製造用
▲大連附近の機械
セメント煉瓦製造

京奉線 奉天北京
間等
吉長線 吉林長春
間
×露名のボグラニ
イチナヤ(國境驛)



山店の鐵、間島の金、東蒙古の天然曹達、鹽等著はる。

撫順、炭田は、南滿洲鐵道會社の經營する處東西四里南北一里、層厚平均百三十尺、千金寨大山、楊柏堡、東鄉、老虎臺等の諸坑に分れ、一ヶ年の採掘高約二百五十萬噸に及ぶ。

工業は、今尙ほ小規模なれども、近年、我が國民等によりて、諸般の大工業勃興せんとし、古來、豆糟(料肥)、豆油の產出著し。南滿洲には、日本人經營の製粉、製油、製糟等の工場、北滿洲には、露人經營の製粉、製糟の工場あり。貿易は、約三十箇の開港市にて行はれ、關東廳の大連、其の大部を營み、遼河下流の營口之に次ぐ。

交通 鐵道は、南滿洲東支、京奉、吉長の四線著はる。南滿洲鐵道

は、我が國の經營に係り、大連、長春間を幹線とし、支線に、安奉線、營口線、撫順線、旅順線等あり。東支鐵道の幹線は、滿洲里、綏芬を兩端として、西比利亞鐵道の支線に連る。哈爾濱に起り、寬城子に至れる其の支線は、南滿洲鐵道と連絡す。吉長鐵道は、早晚敷設せらるべき

滿蒙五大鐵道
 四平街・洮南線
 (四平街・鄭家
 屯間既設)
 長春・洮南線
 熱河・洮南線
 開原・海龍線
 海龍・吉林線



東蒙古人の民家

吉會鐵道及び所謂滿蒙五大鐵道と共に、我が國の勢力線たり。河川は、一般に舟運の便多く、安東大連營口には、海運の便あり。陸上は、冬季に車馬の往來盛なり。

住民 北より南するに従ひて、人口漸く多し。大部は、直隸・山東兩省等より移住せる漢族なり。

滿洲族(通古ス族)は、支那本部の北部に移住し、今は滿洲に居る者、僅に一百万に止れり。専ら支那語行はれ、辮髮窄袖風をなす。漢族は、少給に甘んじて労働す。是れ労働的

滿洲東蒙古人文誌

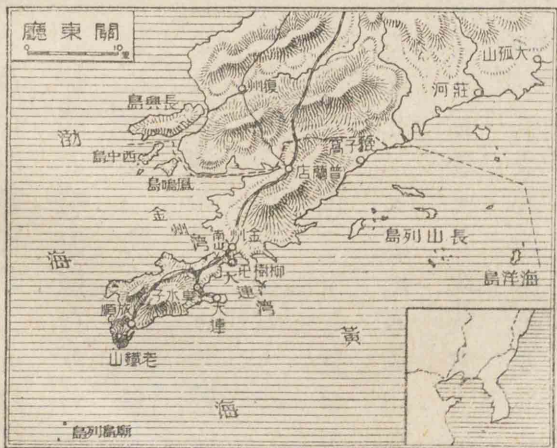
盟は蒙族より成り
東蒙には四盟（三
十六旗）あり

面積三〇万里、人口
五五萬（日本人七萬）

日本移民の有望ならざる所以なり。東蒙古には、蒙古族多く、漢族、
滿洲族亦雜居す。宗教は、滿洲に道教、東蒙古に喇嘛教行はる。
政治 滿洲の三省には、各首府の奉天、吉林、齊齊哈爾に省長督軍
駐在せり。しかも地方には、馬賊剽盜横行す。東蒙古には、滿洲支那
本部の省政移住の滿洲族漢族に及べ
るも、亦蒙古族の旗長盟長政治を行へ
り。我が國は、南滿洲、東蒙古を勢力範
圍とし、北滿洲の露國の勢力は、今や崩
壊したり。

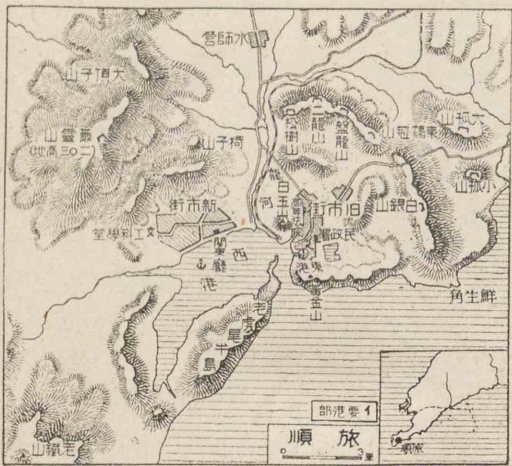
第三章 地方誌

關東廳 遼東半島（省內京）南西端の我が
租借地にして、全土殆ど丘陵なり。海岸
は、出入多く、殊に大連、金州の二灣、相逼



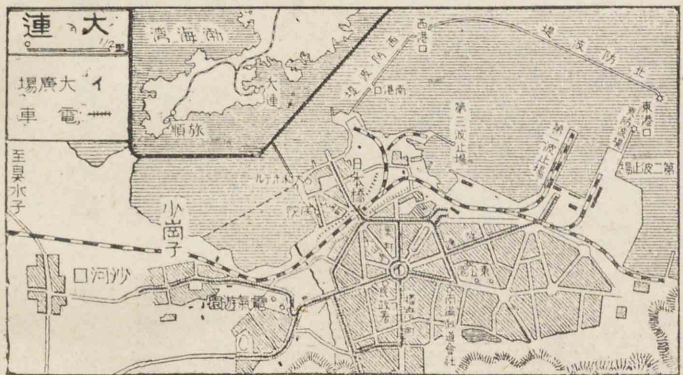
* 政府は盛に植林
を行ひ水田をも開
かん計畫せり
大連に水産株式會
社あり

つて金州地峽を形成し、以て本域を二分せり。東方の海上には、長山
列島、海洋島羅列す。農牧林の三業振はざるも、漁業、天日製鹽共に
盛にして、工業も漸次發達せり。
渤海咽喉の旅順は、山繞り港口狹き要害地にして、日清日露の兩役

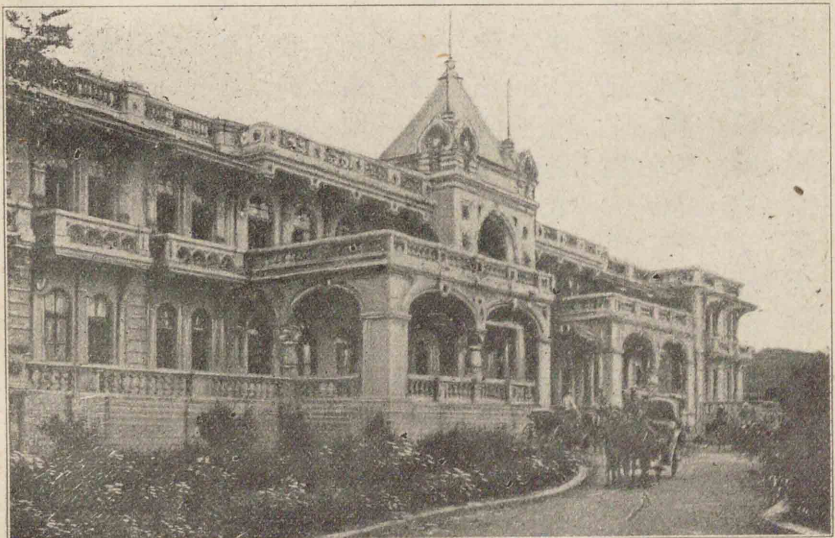


に、我が軍の奮戰陥落せしめし處、二
百三高地、東鷄冠山等の戰蹟、當年の
悲惨を偲ばしむ。關東廳旅順要港部
高等法院、工科學堂、民政署の所在地
にして、東港は海軍の要港、西港は大
連の補助港たり。
大連灣内の自由港大連は、南山によ
りて北風を防ぎ、滿洲重要の南門に
して、民政署、南滿洲鐵道會社及び諸

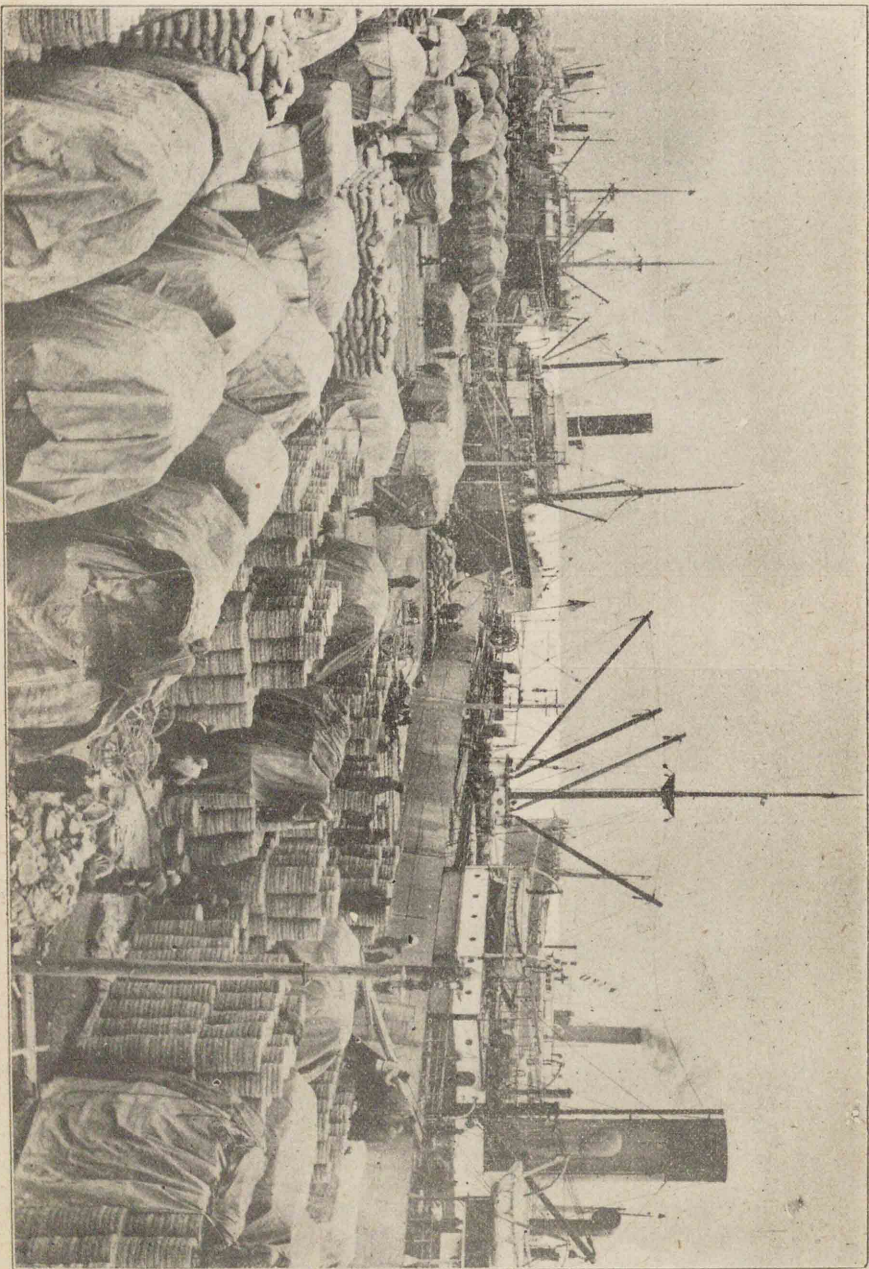
大連の對岸に柳樹屯の小港あり



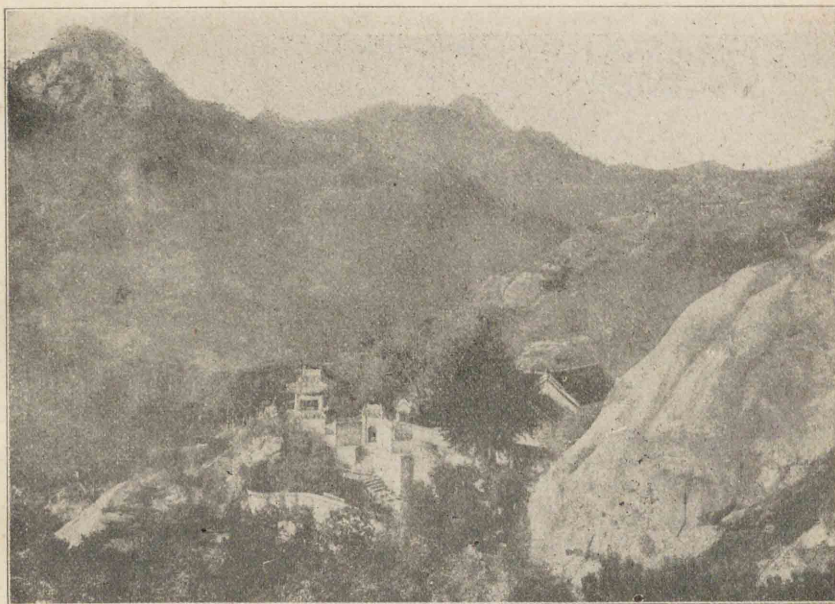
工場あり。市街端正、建築壯麗にして、港灣の設備、東洋屈指の名に恥ぢず。貿易盛大にして、大豆、豆糟、石炭の輸出、綿、布、清酒、鐵器類の輸入多し。



旅順の東廳



大連の頭埠と大豆と注意せよ



山 千



天 奉

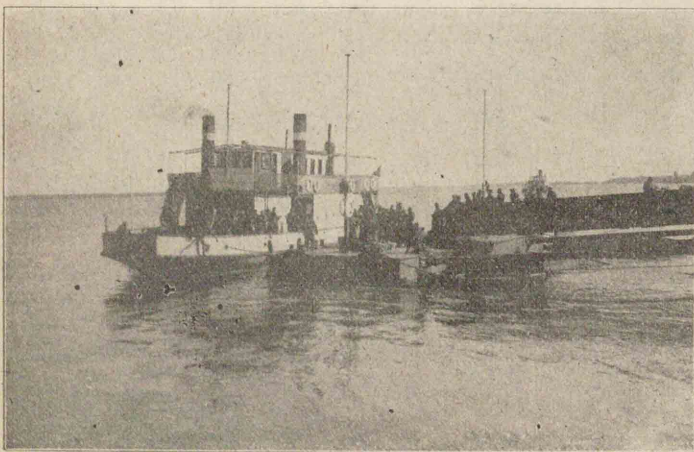
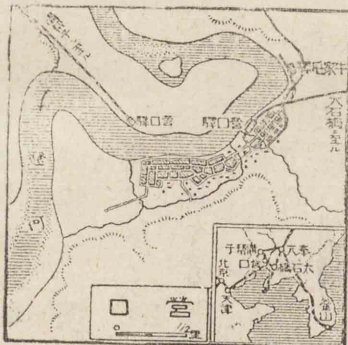
＊ 普蘭店と共に金州民政署の支署あり
大東溝は安東の南方に在りて朝鮮の普蘭浦と相對す

牛莊の開港場は遼河々床の淺まるに從ひ營口に移れり是れ營口に牛莊の俗稱ある所なり

金州は、金州灣に臨み、民政署あり。附近の南山は、日露戦役の激戦地なり。貔子窩の附近は、關東廳内に於て、製鹽業最も盛なり。

盛京省 鴨綠

江下流の安東は、材木、柞蠶絲、大豆を輸出し、安奉、京義二線連絡の廻轉開閉式の鐵橋あり。蓋平は柞蠶絲の集散地にして、大石橋は、南滿洲鐵道本支線の分岐點なり。營口は、遼河の下流に位し、大連と、豆糟、豆油の積出を競ふ。汽船、日支の鐵道を連絡せ

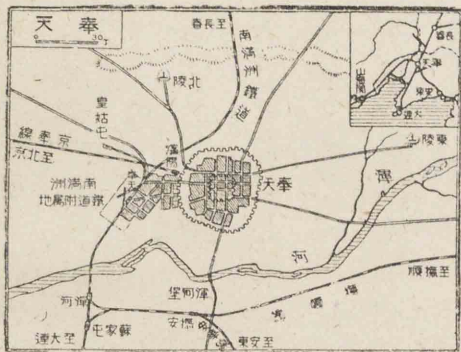


船汽絡連の道鐵支日るけ於に口營

撫順市は撫順炭坑と渾河を隔つ

法庫門通江子昌圖等を東蒙古に輸入するものあり

松花江支流の牡丹江に沿へる寧古塔は清朝發祥の地哈爾濱東方の三姓と西方の伯都訥と共に開市場なり



り遼陽は我が守備隊司令部の所在地なり。附近の千山は山紫水明の勝地にして、溪谷に宏壯なる佛閣あり。

奉天は渾河の北に位して、滿洲の最大都たり。南滿洲本支線京奉線接續して、交通上の中心をなす。南滿醫學堂の所在地にして、郊外

に清朝の宗廟、西方に新民、東方に撫順、北方に

鐵嶺あり。鐵嶺は日本人經營の製粉所の所在地にして、遼河岸の馬蜂溝を外港とし、大豆

の集散多く、法庫門通江子四平街と共に、東蒙

古に對する要地なり。

吉林省 吉林は煙草木材を集散し、吉長吉會

二線の連絡すべき地なり。吉會線は會寧(朝鮮)に

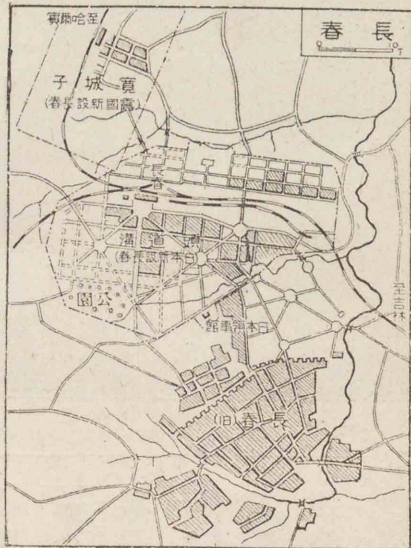
至るものにして、我が國より滿洲に入るべき

近道なり。その中途なる間島には、局子街頭道溝龍井村發達し、附近

×我が新設市街にして舊市街の長春は約半里の南方露國創設の長春即ち寬城子は約半里の北方に在り

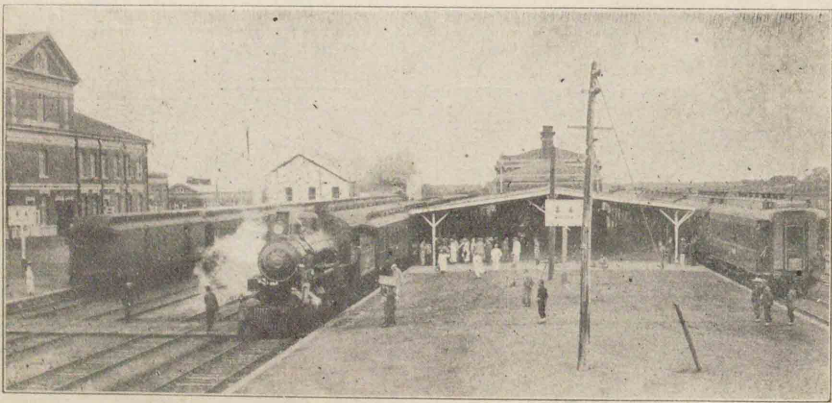
*歐洲大戦以前は露國の東方經營の一策源地として榮えたりしが今は衰運に向へり

の埠 春と 共に、 朝鮮 内地 人の 移



住多し。長春は、日露鐵道の接續地にして、大豆、豆油、高粱酒の集散多く、日本人經營の製粉工場あり。

哈爾濱は滿洲の略中央に位し、東支鐵道本支線の分岐點なり。露人創設の新市港市は、舊市よりも榮え、新市に露人



長春の日の露鐵道連絡

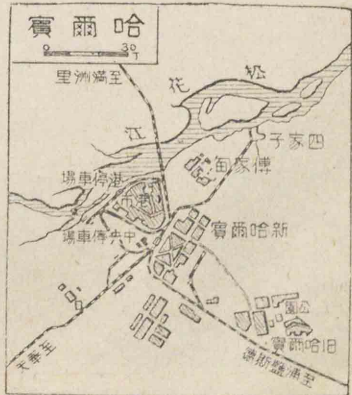
ハイラル
海拉爾は東支鐵道
の一驛なり



屯 家 鄭

の 粉 糖 寸 本 豆
麥 砂 燐 日 人

油・醬油の工場あり。



黑龍江省 呼蘭白彥蘇々々は、高
梁・豆油・豆糟の産多し。齊々哈
爾は、穀類・家畜・毛皮の市場にし
て、輕便鐵道により、東支鐵道と
連絡す。愛琿は、黑龍江に沿へ
り。其の上流の黑河は、黑龍江を

隔ててブラゴベシチンスク(嶺)と相對す。

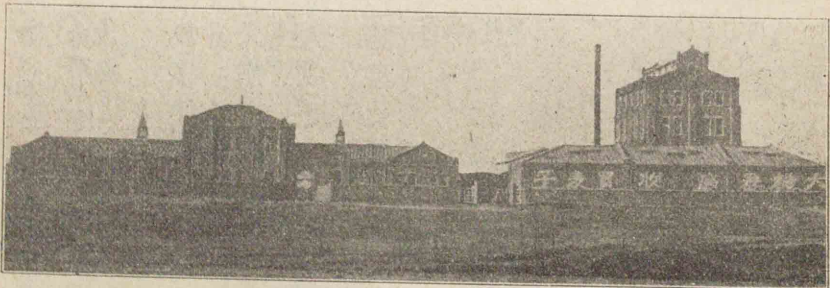
東蒙古 洮南は、麥・大豆の産に富み、西方蒙古
との取引行はる。滿蒙五大鐵道の三線全通せ

ば、其の發達思ふべく、既に其の一線は、四平街
(盛京)より鄭家屯に來り。赤峰は、遼河の上
流地方に位し、高粱・麥を産す。熱河の上流なる

熱河(承)には、清代の離宮あり。
Jehol(Qiang-tai)

第四章 日本との關係

我が國は、關東州を租借し、滿洲・東蒙古を勢力
範圍とし、北滿洲に於ても、漸く露西亞の勢力
に代らんとする大勢あり。我が關東廳長官
は、關東州を管轄する上に、南滿洲鐵道線路の
警護に當る。



(場工粉製鐵)例一の動活人本日

スエトウ
綏東(小庫倫)多倫
諾爾は共に喇嘛教
の據地

資本金二億圓の南滿洲鐵道會社は、我が滿洲經營の主働者たり。即ち所有鐵道の幹支線を經營して、大豆、豆糟、石炭の輸送特に多く、採炭、製鐵、機械製造、海運業、倉庫業、港灣修築、土地開拓等を副業とし、市街學校病院旅館等を建設す。

滿蒙(南滿)は、今や我が好箇の殖民地となり、同胞の移住、日に月に多くして、其の數二十萬に達し、諸種の産業を起し、又鐵道附屬地に、内地風の市街を建設せり。若し夫れ滿蒙五大鐵道大成せんか、同胞の活躍、更に著しきものあらん。現今領事館は、左の諸地に設けらる。

・は總領事館の所在地

- 齊々哈爾
- 哈爾賓
- 長春(分館 農安)
- 吉林
- 安東(分館 通化)
- 奉天(分館 新民)
- 鐵嶺(分館 撫龍)
- 營口
- 赤峰
- 鄭家屯
- 遼陽
- 間島(分館 頭道溝 局子街 琿春)

第一編 亞細亞洲

第一章 支那

支那は歐羅巴よりも廣く我が國の面積の十六倍餘あり

第一節 地文誌

區域

支那は、亞細亞大陸中央以東の老大國にして、亞細亞全土の四分之一を占め、支那本部、滿洲、蒙古、新疆、西藏、青海の六部に分る。

地勢

一般に興安嶺、印度支那の二山脈をつなぐ斜線の東側は平地、西側は高地たり、其の平地は、南帶(南嶺)、中帶(南嶺北)、北帶(北嶺)、滿洲の四平野に分れ、高地に、蒙古、新疆、西藏の三高原と、タリム盆地とあり。

河川 北帶の要流たる白河は、渤海に注ぎ、其の流域に、北京、天津あり。黄河は、青海地方に發源し、汾水、渭水、洛水を併せ、東の方渤海に

南帶は主に珠江流域、中帶は主に揚子江流域、北帶は主に黄河白河の流域

面積 七一萬方里 人口 三二〇〇萬人

隣界 東支那海、黃海、朝鮮、亞齊、阿富汗斯坦、印度、支那、南支那海

*約六十年前までは黃海に入れり

* 羅唐峽坐山峽宜昌峽、其の間は約百十哩幅一千尺乃至三千尺兩岸絕壁水勢矢の如し處々旋渦をなし或は瀬となり淵となり通船往往覆没するも風光の壯大奇拔支那第一なり其處を溯るは概れ曳船による



黃土層

入り、其の流域に、西安、河南、開封等の舊都あり。長く黄土層を流れて、河水黃濁す。是れ黃河の名ある所以なり。水量少なく、流勢急にして、舟運の便少なく、洪水を起して屢、人畜を害し、河道亦屢變更せり。支那人、之を無用の長物と云ふ。揚子江は、又青海地方に發源し、支那本部に入りて長江等の稱を得、三峽の險を経て平地に出づるや、洋々として大船を通じ、以て東支那海に入る。長さ一千三百里、實に亞細亞の最大江にして、舟運灌漑の利著しく、沿岸に、漢口、上海等、多くの大都市發達せり。珠江は、舟運灌漑の利、揚子江に次げり。湖沼 洞庭、鄱陽の二大湖は、揚子江の水量を調節し、且つ運輸灌漑

*我が國の八景のもととは之を模したるなり洞庭湖の大筏は耕圃飼畜場等を具へ規模大なり

沙漠中に埋める死體ミイラになると云ふ

を助く。殊に洞庭湖は、増水期(以冬季外)には、千噸内外の汽船航行し、湖岸に洞庭の八景等あり。西部高地には、青海、ロブ湖(Lop-nor)テンリ湖等の鹹湖少なからず。海岸 揚子江以北の海岸は、出入特に少なし。遼東、山東、二半島の抱ける渤海は、遼東直隸の二支灣をなし、其の外海の黃海には、大連灣、威海衛、膠州灣等あり。灣狀の揚子江口より南すれば、海岸は、一般に鋸齒狀を呈す。杭州(錢塘灣口)には、舟山列島横はり、それより南に、三門、廣東、東京等の諸灣あり。又南支那海、東京灣間に、雷州半島、海南島あり。

氣候

一般に大陸性なれども、東海岸と、中帶地方とは、共に中和溫暖なり。南部は、熱帶性にして夏季に降雨多く、往々颱風襲來す。西部高地(蒙古新疆)は、殆ど降雨なく、殊に蒙古、新疆には、内地灌域、大沙漠連れり。

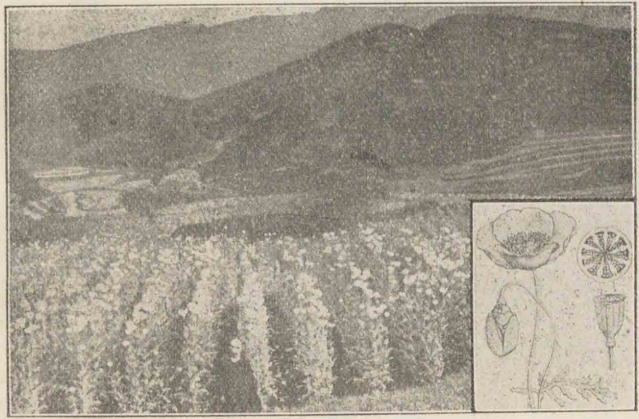
滿洲には林業も行はる

*日當り長き處に穴を穿ち藁及び乾きたる馬糞末を納れ其の中に玉子を置いて孵化す

第二節 人文誌

産業

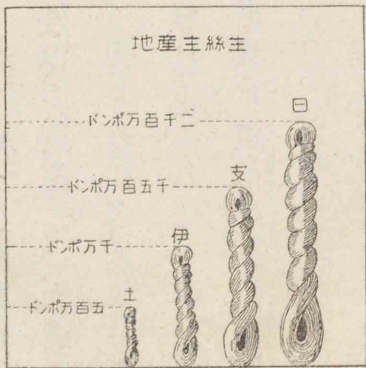
一般に支那本部滿洲は農牧鑛工蒙古は牧畜行はれ新疆西藏は農牧相半ばす。農業 概ね大農法行はれて北部に高粱大豆麥中部以南に米茶綿



粟粟(阿片原料)の農圖

甘蔗阿片を産し江蘇浙江廣東の三省は蠶業特に盛なり。牧畜 是れ支那人の一妙技にして牛馬羊豚驢騾駝多し盛なる支那本部の養雞は人工孵化法さへ行はれて雞

生絲主産地



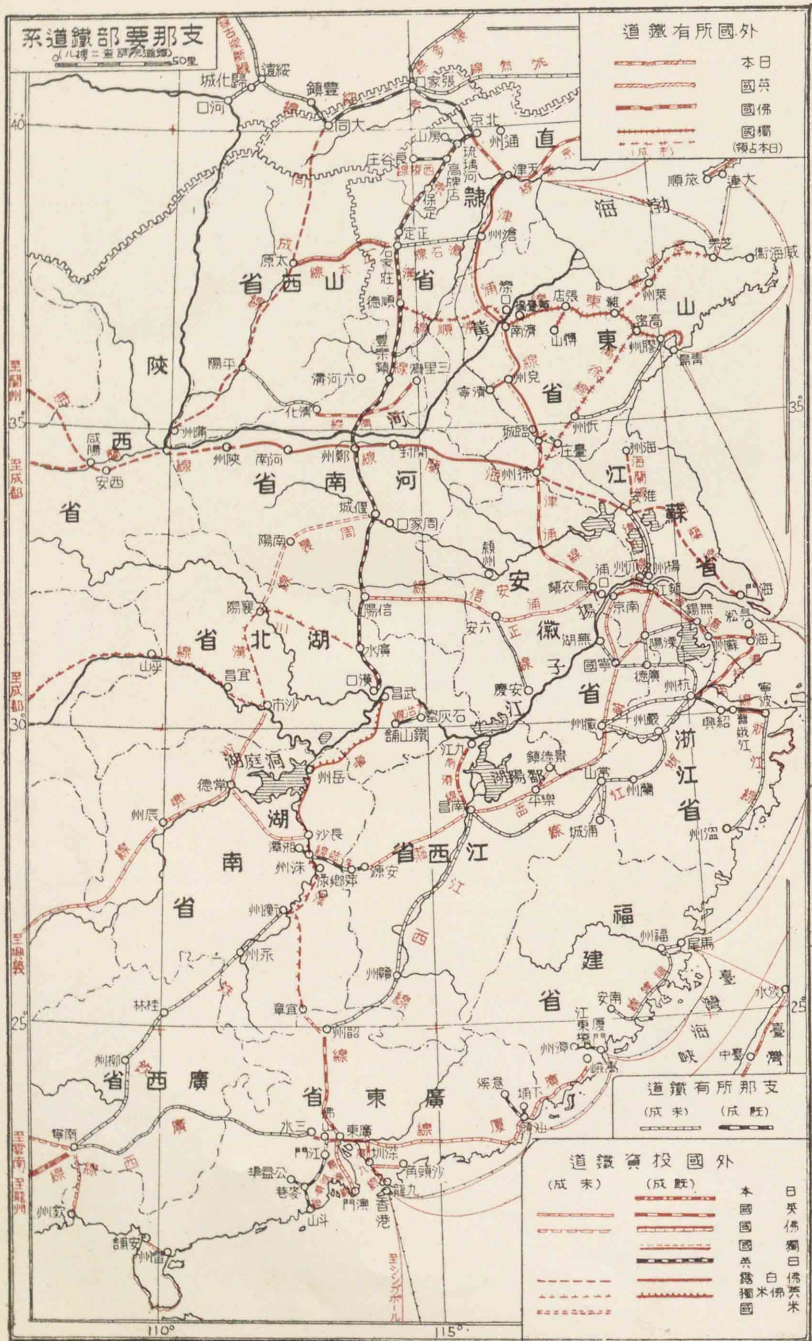
*主産地箇處
*自流井等にて地下水を汲みて製す



卵雞肉廉價なり。鑛業 鑛物の埋藏頗る多く殊に石炭は滿洲開鑛(直)山東山西萍鄉の諸炭田を鐵は大冶鐵山(北湖)を主産地とし雲南省に錫四川省に食鹽の産多し就中大冶の鐵鑛は漢陽八幡の製鐵原料たり。工業 絹織物陶磁器漆器紙等の如く舊式の工業品多し而かも今や造船製鐵造兵紡績製絨等の新式工業行はるゝに至れり。貿易 上海漢口天津廣東大連を始め百有餘の開港市にて行はれ日英を主要取引國とし生絲大豆糟茶の輸出綿絲阿片の輸入多し。抑も支那人(殊に山東人山)は天性商業に長じ信用を重んじ組合の規則制裁を儼守す是れ貿易の前途が有望なる一理由たり。

交通

西部の高地地方は交通不便なれども東部の平原地方は



- 1 北京漢口間
- 2 天津浦口間
- 3 青島濟南間

×一千三百餘年前
隋の煬帝の開鑿せしものと稱せられ
杭州より北し揚子江
黄河を横断し白河に
通ず長さ三百餘里支之に倍す
*交通機關を示す上
に
行旅の多忙を意味す



車 輪

古族土耳其族、西藏族、苗族などあり。

水路・鐵路の便稍多く、支那本部の鐵道に、京奉、京漢、津浦、山東等の諸線あり。道路は、開港又は大都市を除かんか、車、轎の通じ難き處多し。斯かる地方は、驢、騾により、殊に山東地方にては、一輪車を使用せり。中部以南は、揚子江、珠江、大運河の水運多くして、北部地方の馬類使役と對照し、南船北馬の語あり。我が日清汽船會社、日本郵船會社、大阪商船會社、支那の招商局は、揚子江又は沿海の航路につきて優勢なり。

住民 世界の最多人國にして、總

人口無慮三億餘、中に漢族、滿洲族、蒙



漢族は支那本部・滿洲に住して國民の大部を占め、

(すく長を爪の手は士紳女貴の那支) 爪き長と足纏の人婦族漢

支那の古
文明を開
き孔子の
如き大聖
をも出だ
したり。勤
儉にして
能く祖先
に事へ、勞
働に耐へ、
商機に長
じ、盛に海
外に移住
す。彼の阿



(食飲店露・書代・髮理・買賣物曲斑一俗風族漢)

膠州灣は獨逸の租借地なりしを大正三年十一月七日我が國之を占領し近く支那に還付せんとす

*滿蒙にあるものは既に一六頁に記せり

に達せん。海軍は、微力なる巡洋艦隊と、長江艦隊とあるのみ。

列強の利權

支那は、列強の競争場にして、強國勢力下の鐵道、鑛山多き上に、關東廳(日)、威海衛(英)、九龍半島(英)、廣州灣(佛)は租借せられ、又巨額の借款あり。しかも國民は、一に内争を事として、國難を知らざるものゝ如し。而して香港島、九龍は英領、澳門は葡領たり。

日支の關係

日本と支那とは、一葦帶水の間在りて、遠き昔より、交通貿易、修好を事とし、我が文藝制度の發展に、彼の力を俟ちしもの多く、今も唇齒輔車の關係ありて、殊に彼我貿易の増進率は、英國のそれを凌ぎ、滿洲を初め各地に、我が資本移民の注入漸く多し。且つ將來は、列強の勢力著しく東漸せん。日支の兩國、親好を重ねずして可ならんや、我が領事館の所在地左の如し。

- 總領事館——天津 濟南 上海 漢口 成都 福州 廣東 香港(英)
- 領事館——芝罘 蘇州 江寧 杭州 九江 長沙 沙市 宜昌

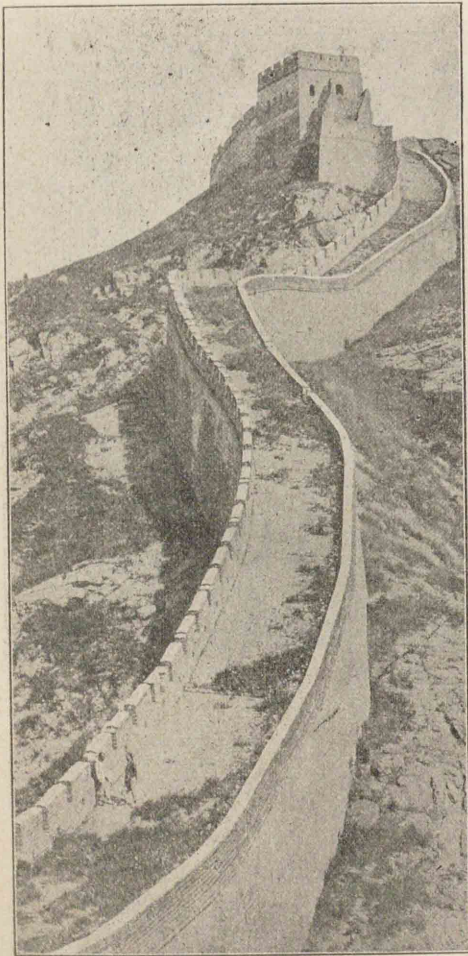
重慶 雲南 厦門 汕頭

第三節 地方誌

(甲) 支那本部

北帶 京兆及び直隸山東山西河南陝西甘肅六省 概ね北嶺以北の白河・黄河の流域に屬し、黄土層廣く分布して、大雨季には泥濘膝を没し、乾燥季には砂塵天を蔽ふ。

萬里長城は支那否な世界の一大偉觀たる建築物なり高さ二丈五尺厚さ一丈五尺の煉瓦造りにして長さ約八百里山を越え谷に跨り蜿蜒恰も長蛇の如く西方の嘉峪關に達す

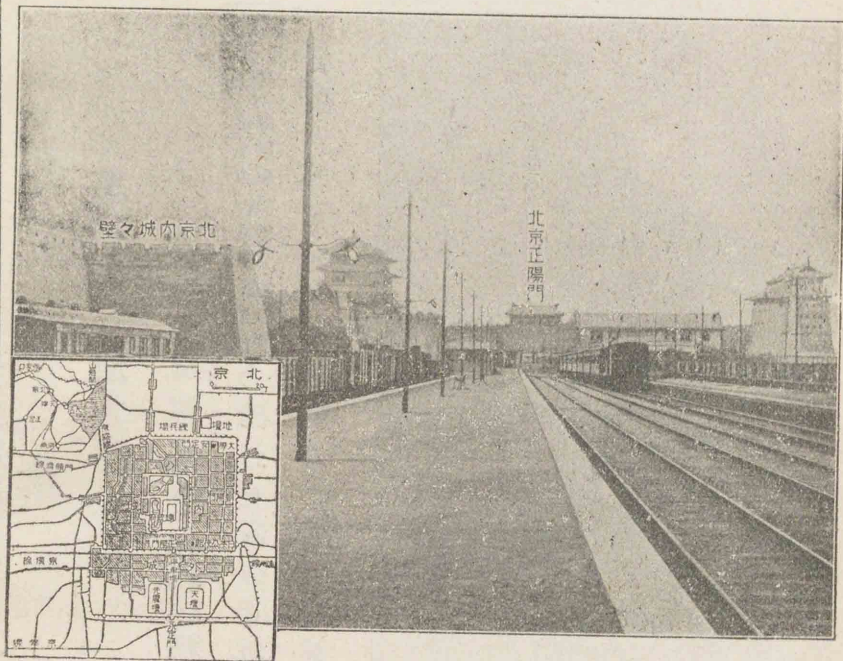


城長里萬

山海關 Shan-hai-kuan は滿洲に入るの要地、萬里長城の東起點に

*冬季は碎氷船によりて通船す

京兆は直隸省に包まるる地域



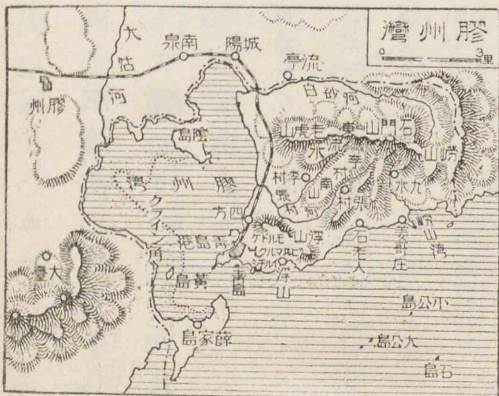
して、附近に、北帶唯一の不凍港、開瀾炭の輸出港たる秦皇島(島)あり。天津は、白河の下流、大運河津浦線の北端に位し、河口に塘沽、大沽を控へ、北京の咽喉、北帶第一の開港にして、我が專管居留地、能く發達せり。白河が河底に沙洲を有し、冬季に氷結するは、天津の爲めに惜しむべし。京兆の中央平野に在る

直隸省には居庸關、保定、開平(炭坑地)等の地あり
*近時漢綫と合稱するに至れり

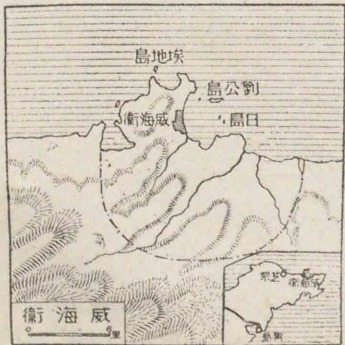
芝罘は落花生、大豆を集散し、支那北部に於ける海外出人の出立地なり

周村は榨蠶業の中心地なり

*明治三十一年



首府北京は、内城外城の二部に分れ、何れも城壁に圍まる。内城は、市街壯麗にして、舊皇城、官衙、外國公使館あり。外城は、商店軒を列ね、市街雜鬧して不潔を極む。京奉、京綏、京漢三鐵道などの大連絡點たり。張家口は、北京蒙古間の要地、羊毛、毛皮の市場として著はる。山東半島北岸の芝罘は、繭織の取引多く、英國租借の威海衛は、日清戰役に著はる。半島南岸の膠州灣は、宣教師の殺害せられしを口實として、九十九年間、獨逸之を租借せしが、我が國は、それを攻略し、附近の鑛山、鐵道等の利權を收め、早晚、領土を支

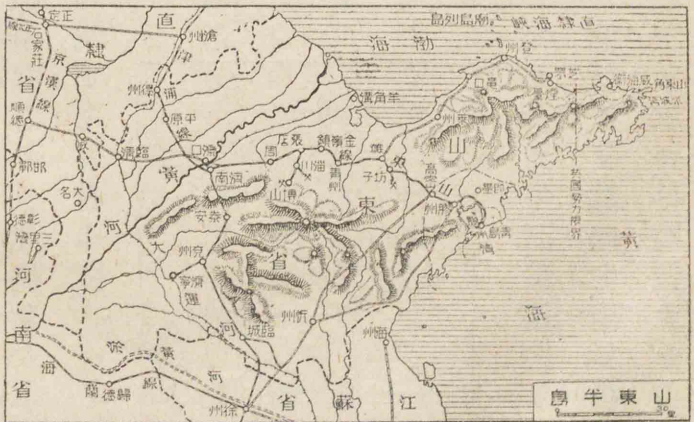


× 奇岩怪石古碑堂
宇ありて春季に登
山者多し
開封は歴々水害を
蒙れり

西安の南西漢水の
流域に漢中あり

× 市中の銀街は支
那一等の道路なり
○ 支那貿易總額の
二割を占む

那に歸せしめんとす其の港市の青島は、
風光明暉、建築壯麗にして、山東鐵道を濟
南に通ぜり。曲阜は孔子の廟のある處
泰山は古よりの名山なり。
汾水岸の太原は鐵道を通じて、京漢線に連れり。開封は
汴京、河南は洛陽、西安は長安の故地なり、殊に渭水河岸の
西安は古蹟甚だ多く附近に咸陽(秦)函谷關あり。
蘭州は西域に入るの要地、西寧は青海鎮將の駐在地なり。
中 帶 江蘇、安徽、浙江、江西、湖北、湖南、四川、貴州、雲南の九省 概ね北嶺南嶺
間の揚子江流域を占め、地味肥え、産物豊
かにして、支那に於ける最重要地なり。
上海は揚子江支流の黃浦江に沿ひ、河口の吳淞を外港とし、支那の
最大港にして、汽船の出入多く、市街壯麗、貿易盛大を極む、工業亦盛

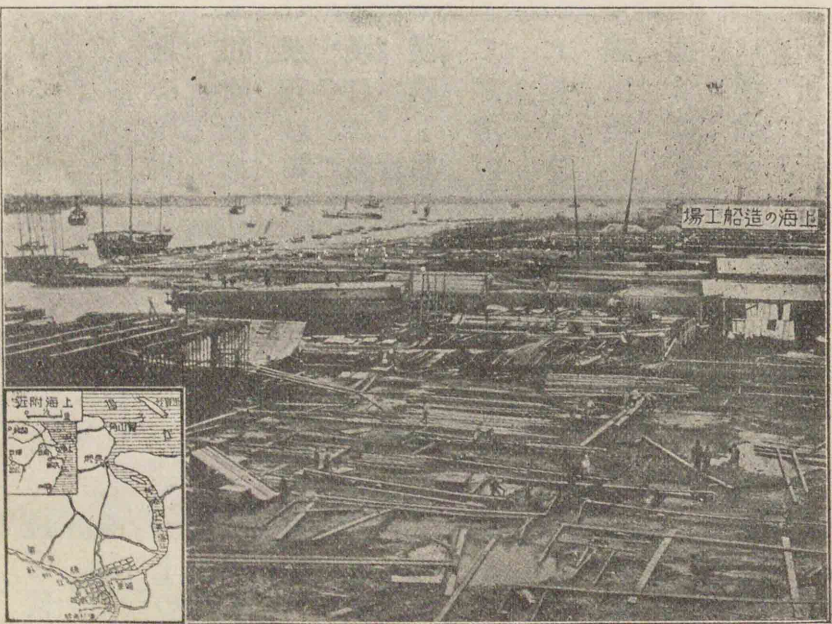


× 楓橋夜泊
月落烏啼霜滿天
江楓漁火對愁眠
姑蘇城外寒山寺
夜半鐘聲到客船

江寧は埠頭を下關
と云ひ紫金山等を
控ふる要害の地
蕪湖は茶の輸出港
徽州は筆墨の産地

紹興は酒、温州は
蜜柑の産地

にして、製絲綿絲紡績造船
兵器の工場あり、太湖東岸
の蘇州は、絹織物の産多く、
附近は風勝に富めり。無錫
は米、蘭、大運河、揚子江會點
の鎮、江は米絹織物の大産
地なり。揚子江南岸の舊
都江寧(南京)は、絹織物の産
出夥しく、文雅の地なり。杭
州は海嘯もて名高き錢塘
江に臨み、絹織物の産、蘇州
と並び稱せられ、蘇州、沙市、
重慶と共に、馬關條約に基



海上の船造と位置の海上

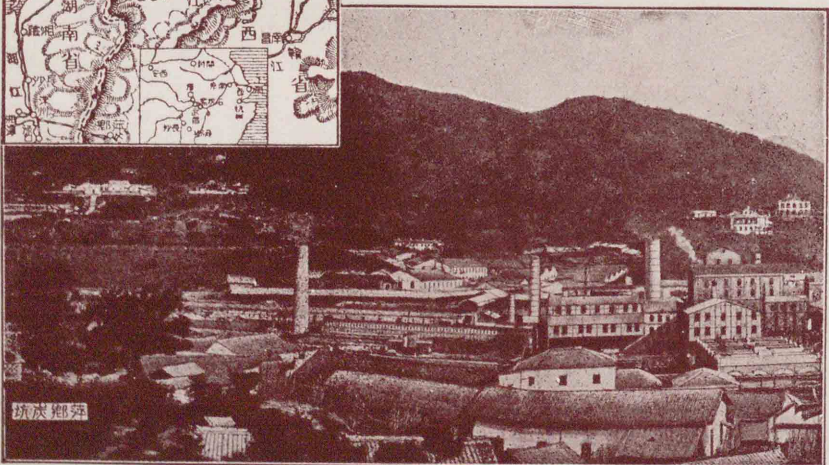
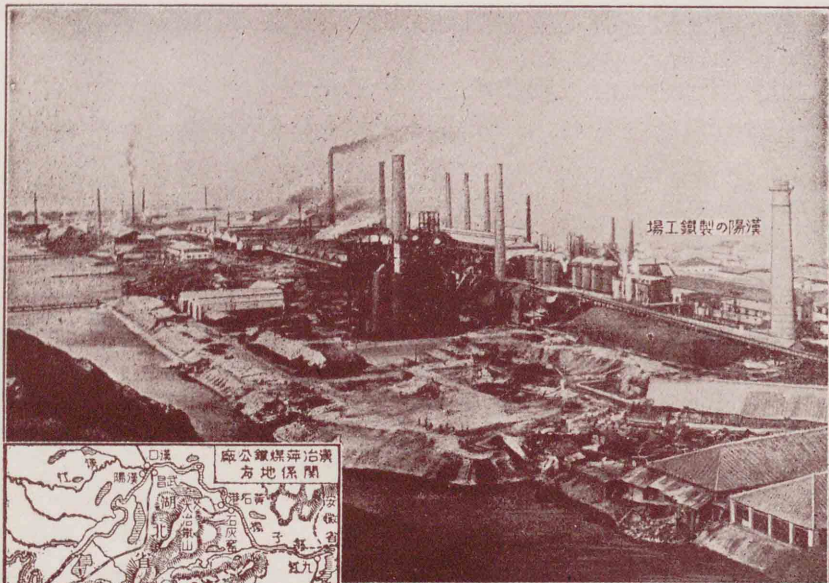
* 溆陽鐵道(溆は九江の舊名溆陽に因む)

* 漢陽製鐵所大冶鐵山萍鄉炭坑を併稱し我が利權の一なり



茶の收穫

ける開港場なり。寧波は我が遣唐使の多く上陸せし處なり。九江は鄱陽湖の北に在りて茶を産し、日本勢力下の鐵道を紙の産地なる南昌に通ず。其の南東方に陶器の産地景德鎮あり。漢口は揚子江漢江の會點に於て武昌漢陽と鼎立し、水陸交通の大中心にして、東洋のシカゴの稱あり。貿易年と共に盛況を呈し、工業亦盛なり。今や京漢鐵道開通し、他日粵漢川漢の二鐵道全通せば其の發達測るべからず。漢陽は漢冶萍煤鐵公廠(所製鐵)機器局彈藥製造所の所在地なり。其の鐵公廠は原鑛



漢陽の製鐵所と萍鄉炭坑と漢冶萍煤鐵公廠の關係地方圖

大冶鐵山は揚子江岸の黄石港附近に在り鐵礦の産出無限と稱せられ我が八幡製鐵所にも之を供給す 萍郷炭坑は江西省の西境に在り 湘潭は萍郷炭輸送の爲急發達をなせり 宜昌より重慶まで小汽船通ず 四川省西蔵間に川邊特別區域あり 巴塘は西蔵との貿易地

×一名雲南鐵道 貴陽は貴州省の名邑 雲南北西の大理由は大理石産地 雲南より南西の國境には蒙自・思茅・猛印・騰越等の陸上貿易地あり

を大治に、骸炭を萍郷に仰げり。武昌は、綿紡織などの工業行はれ、政治上の要地たり。風光明媚なる岳州は、洞庭湖の末流と揚子江との會點、長沙は、湘江の東岸に在る要都にして、何れも粵漢線、武昌より通ぜり。

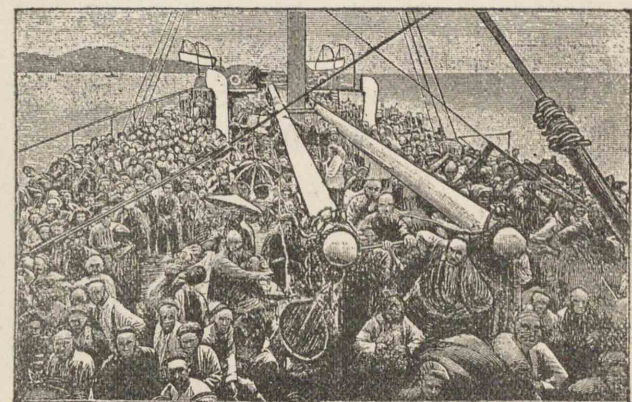
揚子江を溯れば、沙市を経て通常汽船の終航點とせらるる宜昌に達し、三峽の險を経て四川省(蜀)に入る。四川省は、山を繞らせる別天地にして、地味肥沃、産物豊饒なり。重慶は、嘉陵江と揚子江との會點に在りて、貨物の集散盛なり。成都は、同種の商賈、各一區域に

集り、市街端正にして清潔なれば、西洋人之を支那の巴里と稱す。成都西安間に、蜀棧道あり。一夫之を守らば、萬卒も攻め難しと稱せられし處なり。雲南は、滇越鐵道を佛領印度支那に通じ、麝香鹿を産す。

南帶

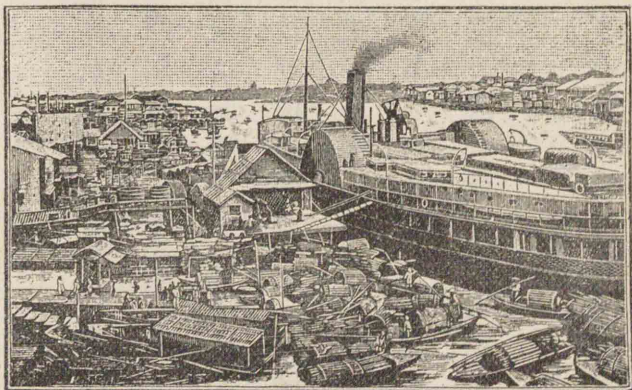
福建、廣東、廣西の三省

概ね南嶺以南の地、珠江等の流域を占め、酷熱多雨



厦門より發する移民は年々拾萬人を下らずと云ふ泉州は史上の名港にして三部澳は茶を輸出す

厦門より發する移民は年々拾萬人を下らずと云ふ泉州は史上の名港にして三部澳は茶を輸出す

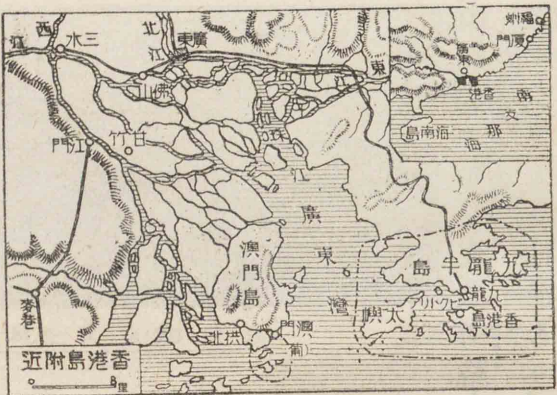


汕頭・北海と共に、海外移住者の出立地なり。沿ひ、南支那第一の貿易場にして、生絲茶絹織物花筵を輸出し、舟中生活を營む者多し。廣東灣口に近く、英領香港島、葡領澳門(港)あり。

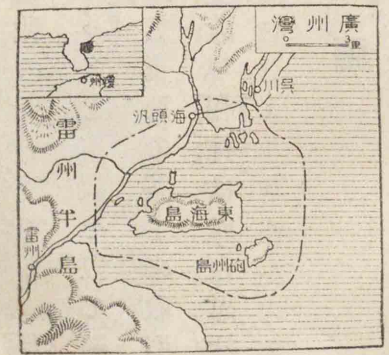
汕頭・北海と共に、海外移住者の出立地なり。沿ひ、南支那第一の貿易場にして、生絲茶絹織物花筵を輸出し、舟中生活を營む者多し。廣東灣口に近く、英領香港島、葡領澳門(港)あり。

厦門より發する移民は年々拾萬人を下らずと云ふ泉州は史上の名港にして三部澳は茶を輸出す

三水は廣東の西方にあり



香港島のビクトリア港は、英國の租借地たる九龍半島の英領九龍と相對し航路の大中心、仲繼的大貿易港にして、英國支那艦隊の根據地なり。造船・麥酒釀造・砂糖精製等の工業盛なり。雷州半島頸部の廣州灣は、佛國が、南



廣西省の梧州・桂林・南寧・龍州は名邑
面積三萬方里
人口三〇萬人
×熱河、察哈爾、綏遠なり

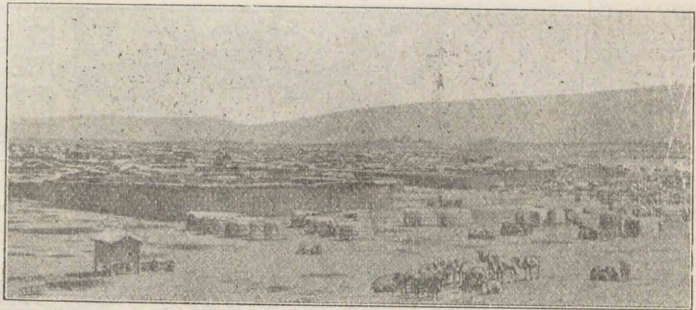
(乙) 蒙古

支那に活躍せんが爲の租借地にして、海南島は天蠶絲を産す。中央の戈壁沙漠によりて、内蒙古、外蒙古に分れ、東部には、滿洲三省の施設の及ぶ處と特別區域とあり、而して内蒙古の東部は、我が勢

内蒙古の歸化城は交通の要地にして隊商集合す

面積九萬方里 人口三〇萬人

ヤルカンドは陸上貿易地にしてホタシ(和闐)の附近には真諦の玉を産す



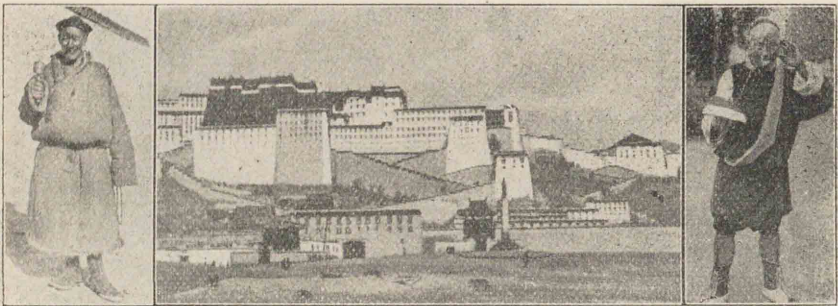
庫倫

力下に在り。外蒙古の殆ど全部は、露國援助の下に、嘗て自治又は獨立を宣言したれども、最近露國の崩壊と共に、之を取消さんとす。外蒙古の庫倫は、蒙古の最大都にして、毛皮の取引多く、喇嘛教の大寺院あり。賣城は、西比利亞のキアフタと木標を以て相接し、西比利亞の毛皮と支那の茶との取引多し。オルコン河上流の和利は、成吉思汗の都せし處なり。

〔丙〕新疆

昔時の西域地方にして、直省の一たり。天山脈によりて、天山南路・天山北路に分る。天山南路には、タリム盆地・タクラマカン沙漠あり。最大都カシガルは、露領中亞細亞に出づ

面積六萬方里 人口六〇〇萬人



西藏最の人禮 達賴喇嘛宮殿 (喇嘛教徒(經)有所有)

る要地なり。天山北路の迪化は、本域の首府なり。イリ河沿岸の伊犁(チル)は、露領との貿易地なり。

〔丁〕西藏

ヒマラヤ・崑崙兩山脈間なる世界最高の高原地にして、前藏・後藏に分れ、沙漠・鹹湖各所に散在し、サンポ(アラマ、上流のインドス・サルウイ)等の河源をなし、サンポ河の北方に外ヒマラヤ山脈あり。住民は、農業の外、犛牛・羊の牧養を營み、喇嘛教



犛牛

英支人を除く

*ボタラ丘

面積三萬方里
人口五萬人

青海は甘肅省西寧に在る鎮將之を治む

を信じ、夙に世界の秘密國と呼ばれ、他國人の侵入を嚴禁す。達賴喇嘛、政教の二權を行ひ、英國の勢力漸次増進せり。拉薩は本域の首府にして、其の市民の四分一は僧尼なり。附近に壯麗なる達賴喇嘛の宮殿あり。亞東は、印度との貿易場なり。

(戊) 青海

西藏の北東に隣り、崑崙山脈の支脈巴顏喀喇山脈連亙せり。此の山脈の南に揚子江、北に黄河の水源あり。原野遠く互り、住民は、多く犛牛を飼育す。湖沼の附近には、天然の鹽層あり。

第二章

印度支那

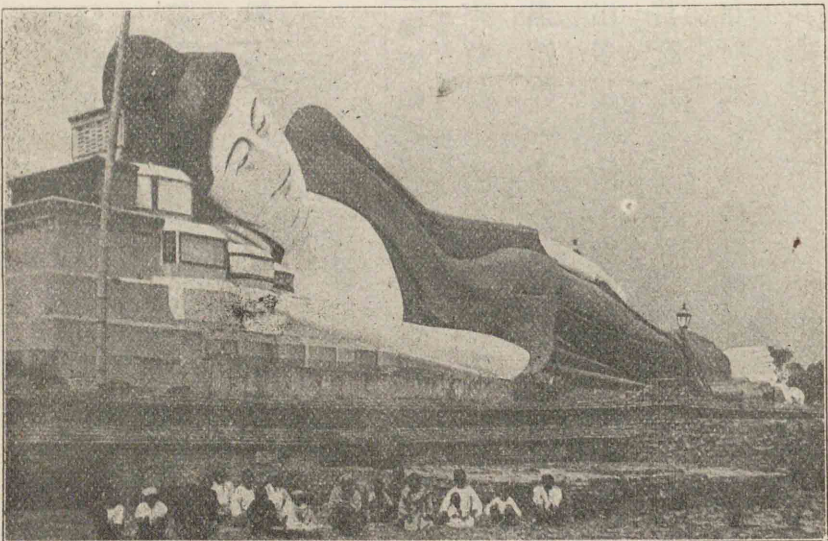
面積二萬方里 人口五〇〇〇萬人
隣界南支那海支那印度・マニラ海・印度洋

第一節 地文誌

地勢

亞細亞大陸南東部の大半島にして、印度支那山脈、數派となりて域内を縦走し、其の一派、マライ半島となりて、スマトラ島との間に、マラカ海峽を挟む。河流は、何れも北より南に流れ、東京灣

チークは印度支那印度に自然林をなす印度にては濫伐せられたれども印度支那殊に暹羅の西北山地には密林あり船艦材として絶好なり



(證一るな盛の教佛りよ古)像迦釋るたれらせ掘發てに近附レダンマ

にソンコイ、南支那海にメコン、暹羅灣にメナム、マルタバン灣にサルウィン、イラワヂ流入し、何れも、下流に三角洲を開けり。

氣候

氣候は、熱帶性に於て、乾濕二季に分れ、一般に酷熱多雨なり。是れ山地にチーク、三角洲に米の産多き所以なり。

第二節 人文誌

住民

印度支那族多きも、移住の支那人、印度人、馬來半

島の馬來族も亦少なからず。宗教は、佛教普く行はれ、馬來族のみは回教を奉ず。

劃區

佛領印度支那 || 東京・交趾支那・老撾・被保護國・安南(同上)・柬埔寨(同上)
Tonkin, Cochinchina, Laos, Annam, Cambodia

暹羅 || 獨立國(英・佛の勢力範圍)

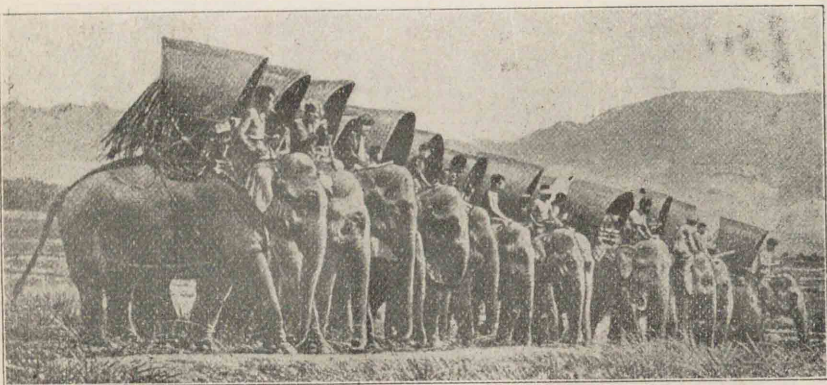
英領印度支那 || 海峽植民地(馬來聯邦・緬甸)
British India, Straits Settlements, Burma

第三節 地方誌

佛領印度支那 昔時、我が國民の航海貿易をなせし地方にして、將來貿易上、政治上、益、緊密とならん。東京のソクイ流域には綿、米、黑檀等の産あり。首府河内Hanoiは、佛國派遣の總督駐在し、海防Hai Phongは、米の輸出多し。海防・河内間の鐵道は、一は南寧、一は雲南に通ぜり。老撾の首府ルアン・プ・ランの寺院には、壯大を極むるものあり。安南の首府順化Hueには、壯麗なる王城ありて、佛國兵之が守備に任ず。交趾支那は、地味肥沃にして、米田椰子林相連る。首府西貢Saigonは、佛國東洋

× 足利幕府の末より徳川幕府の初めに至る頃
 邦語のラオ(煙管)カボチャ(南瓜)は老撾東藩の轉訛なりと云ふ
 海防に我が領事館あり
 安南のカムラン・ホンコーへ二灣は露西亞のバルト艦隊東航の際寄港したる所なり

シオロンは西貢の外港にして西貢米の大市場なり



南亞細亞の象の使役の例

艦隊の根據地、西貢米の輸出港なり。東藩塞は、米の産多く、プ・ノン・ペンを首府とす。

暹羅 山田長政の武名を揚げし處、今や我が國に米・チーク・綿を輸出し、我が教育、軍事政治の指導を待つに至れり。メナム河谷は米・綿・甘蔗、北西山地のシエンマイ地方はチーク材の産多し。水牛象の飼育盛にして、農耕運輸に使役す。特に白象は、當國民の崇敬する所、國章とさへなれり。佛教信仰の度厚く、王公庶民、一たびは必ず國中を巡錫す。専制政體を本則とすれども、勅

メナム河を英佛の境界とす但し海岸は皆英國の勢力範圍なり

舊都アユチアは日本町のありし處にして山田長政の頃王城ありし地なり其の東方のコーラットに鐵道通じ南方のチャンタアンは紅玉を産す



收採液護と林護護

選民選の少數議員より成れる立法府あり切に文明國の政治軍事教育等を移すと雖國に中流社會なく國勢不振にして英佛二國の勢力範圍たりメナム河下流の首府盤谷は王宮寺院壯麗を極め我が公使館領事館ありナムを外港として米チークの輸出多し移住支那人市民の二分一を占めて商權を揮へり水上生活者多くして夜景甚だ佳なり

嚴密に謂へば馬來聯邦は海峽植民地に含まれず

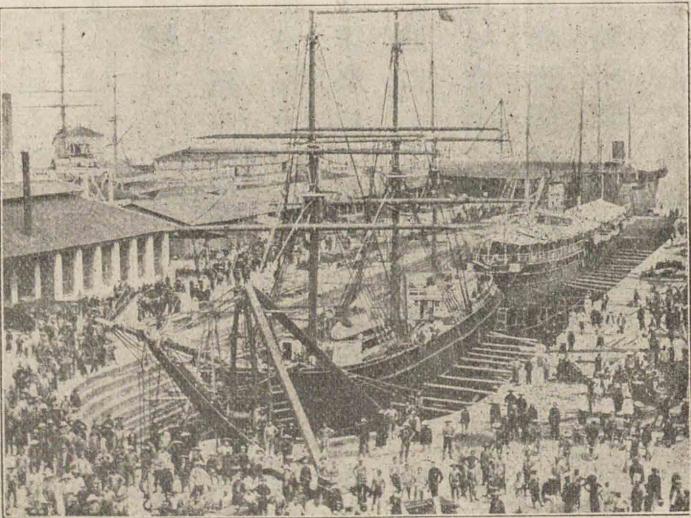
新嘉坡の年貿易額は十億圓内外なり

マラカ及びポートスウェッデンハムも我が汽船の寄港地なり

英領印度支那

海峽植民地は

馬來半島の南部其の附近の島嶼及び馬來族の組織せる馬來聯邦等を含み移住支那人多し護謨錫の産額世界に比なくして多く日本にも輸出し護謨樹栽培の日本人尠からず新嘉坡は南端の同名の島上に位し我が總領事館あり世界屈指の良港を有し東西南三洋の伸繼貿易盛にして我が國よりの輸出も多く彼南島の彼南と共に我が航路に當れり緬甸は印度帝國の一州にして暹羅の如く佛教盛なりサルウンイ



渠船一の坡嘉新

×我がカスカッタ
總領事館の分館あ
り。マニラはイラ
ワ河の汽船航行極
限鐵道の一終點に
ありて頗る有望の
地なり

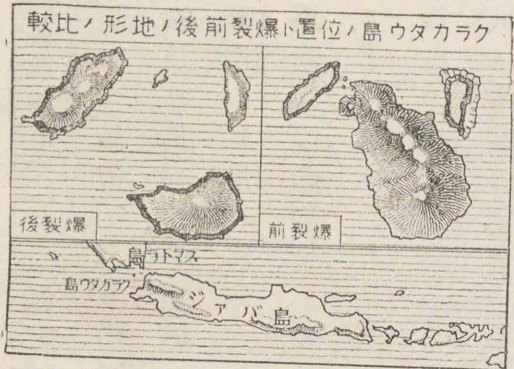
カラカッタ島は爆
發の際に全島の三
分の二を破壊し世
界の海上に津浪を
起し火山灰は空氣
を混濁せしめて世
界の到る處銅色の
太陽を見たり

ラワヂの二河谷は米綿北部山地はチーク材紅玉を出だす。首府
蘭貢は米の輸出多く、寺院堂塔夥し。マンダレは舊王城寺院等あ
りて、往時の繁榮を偲ばしむ。首府に起る鐵道來つて分岐し、其の一
線は支那の雲南省に入らんとす。

第三章 東印度諸島 (馬來群島)

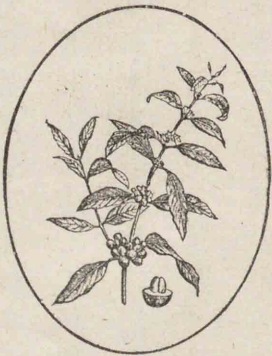
第一節 一般誌

アジア南東海上の島嶼にして、一般に火山
に富み、地震屢起る。中にも瓜哇島は世界最
多の火山地にして、六十有餘の活火山あり。
スンダ海峽のクラカタウ島は、明治十六年、
前代未聞の大爆發 (繪頭挿) をなせり。
氣候は酷熱多雨にして、貿易風と驟雨とは、
快感を覚えしむ。夏秋の交、日本支那をも襲



(り在に坡嘉新く多は場工) 工細藤

ふべき低氣壓
起る。氣候の
關係上、熱帶植
物 (椰子樹、竹、藤、米、
茶、咖啡、甘蔗、麻、
香料植物よく
生育す。動物に
猩々、象、犀、孔
雀、鑽物に金、
錫、石炭、石油、
金剛石等あり。
住民は、回教
徒の馬來族多し。
印度支那に於ける
が如く、移住支那人
の勢力著しく、また
蘭日の移住民も尠
なからず。本群島
は、蘭領、葡



啡 咖

領英領米領の四部に分れたり。

第二節 地方誌

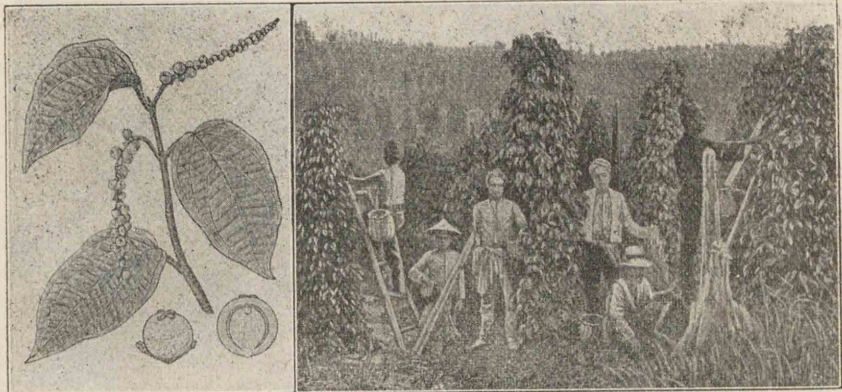
蘭領

東印度諸島の七割と、大洋洲の新ギネア島の西半とを併

面積二、七〇〇方里
人口五三萬人

面積六〇〇方里
人口三〇〇萬人

* 幾那樹皮より製す
瓜哇島の中部北岸に大都サマラ
ンあり
* タンジオン
オリ
オク

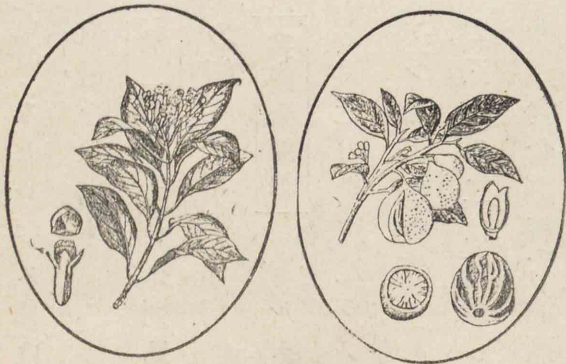


胡椒と圓胡椒

せて、蘭領東印度と稱し、母國に六十倍
せる面積と、六倍せる人々とありて、
タビア駐在の總督之を統治す。我が國
に、砂糖石油の輸出多き上に、今や我が
國産の需用急増し、我が同胞を歓迎す
る傾向も多く、首府バタビアに、我が總
領事館の設けあり。

スマトラ島は、スンダ列島の北西端に
位し、石油の外、世界最良の葉煙草を産
す。瓜哇島は、著しく發達して、和蘭の
一大寶庫となれり。米、砂糖、珈琲、胡椒、
那の産に富み、人口亦多し。首府バタビ
アは、人工的良港を控ふ。其の南方のポ

アンボイナは香料
の大輸出港



肉荳蔻・丁香子

イ・テン・ゾルグ植物園は、規模宏大
設備完全、風光佳絶なり。スラバ
ヤは、本島の最要港、海軍の根據地、
砂糖の大輸出地たり。

モルッカ諸
島は、肉

荳蔻肉

桂丁香

胡椒を

産す。是

れ香料

諸島の稱ある所以なり。

モルッカ諸島の南東の海中にては、我が日

本人、眞珠貝、高瀬貝を採取す。K字形を



幾那の森林と枝

セレベス島のメナドは海底電線の要地にして附近に大谷光瑞氏の珈琲園あり
東印度諸島の住民は容貌言語等我が國人に似たり
*面積四、六〇〇方里
×第一はグリーンランド島第二はバプア島
ホルネオ島には各所に石炭の産地あり

呈せるセレベス島は、氣候良好なり。島内のマンカサル港は、鼈甲乾

海鼠を輸出す。スンダ列島の南東部に、チモル島あり。其の一半は、葡萄牙

葡領の領有なり。ボルネオ島は、世界第三の大島にして、其の約三分一

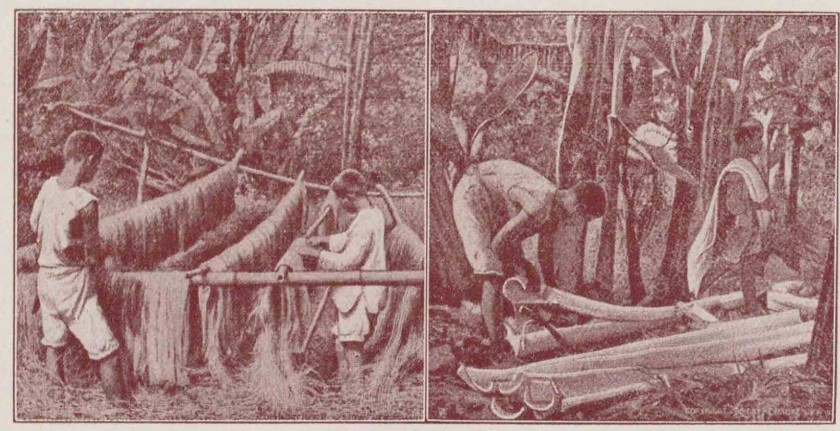
と、附近の産炭地ラブアン島とは、英領にして、三分の二は蘭領なり。

金・金剛石・石油・燕窩・甲サゴの産多く、將來有望の地なり。

燕窩は、瓜哇にも産し、支那人の高等食物なり。



(龜甲鼈) 瑁瑁と高燕



し晒と料原の維織の麻ヲニマ



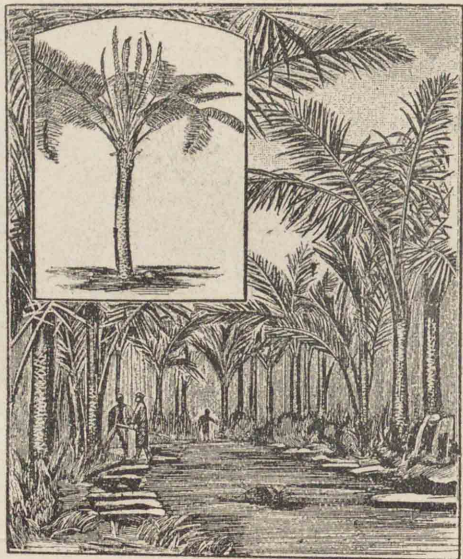
取採の子椰乾

タラオには久原家
經營の農場あり

面積一、六〇〇方里
人口八〇〇萬人

ミンダナオ島には
マニラ麻栽培の爲
に移住せる日本人
多く將來有望の植
民地なり

× 桑港より通じ中
途アム島より支
線を小笠原島に通
じ又マニラにて香
港より來る海底電
線と連絡す



樹ゴサ

り。英領は、サンダカンを首
府とし、日本人の護謨植林等
存在し、域内のタラオは、蘭領
のバリク・パパンと共に、我が
汽船の寄港地なり。
Balik Papan

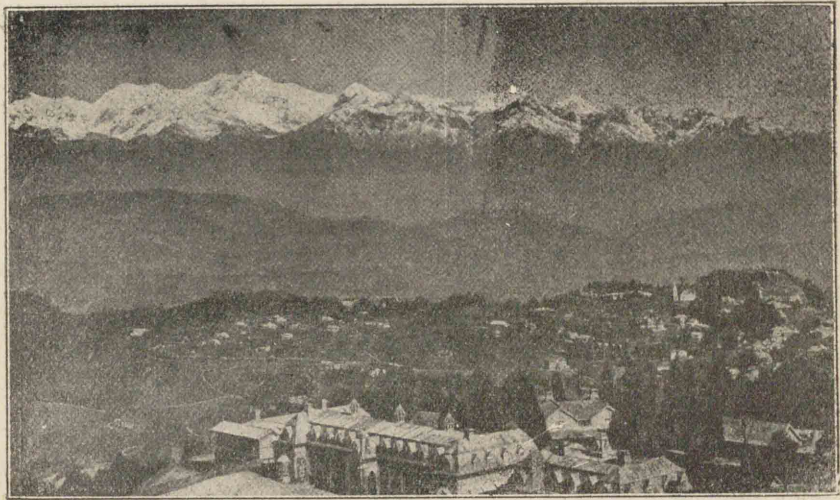
米領 **比律賓群島**は、バシ
Philippine Islands
海峽の南方に位して、我が同
胞南進の衝に當り、呂宋・ミン
Luzon Mindanao

ダナオ等を大島とす。初め西班牙の領地たりしが、明治三十一年
に米領となれり。マニラ麻・マニラ煙草・椰子・砂糖の産に富みて、
多く我が國に輸出し、我が國産を需用すること亦多し。首府馬尼
刺は、呂宋島に在り、我が總領事館の所在地、太平洋海底電線の西端
にして、ザンボアंगाと共に、我が汽船の寄港地たり。オロンガポ
Zamboanga Olongapo

パネー島のイロイロは各島間交通の要地

印度の面積は我が國の六倍あり

半島の東岸をコロマンデル海岸西岸をマラバル海岸と云ふ
半島の西にカチャワル半島あり
ヒマラヤ山脈は東西六百里、南北六十里平均高度一萬八千尺あり共に雪線以上に達するが故に山上に氷河多し殊にエマレスト山は高さ八千八百四十米に及び我が富士山の二倍に餘る



遮暑地ジグアンとヒマヤ山脈の一部

は、米國東洋艦隊の根據地なり。

第四章 印度

面積 二五萬方里 人口 三〇〇〇〇萬人
隣地 印度支那 支那 伊蘭 地方 印度洋

第一節 地文誌

地勢

印度洋に突出する三角形の大半島にして、先端をコモリン岬といふ。地勢上、北部のヒマラヤ山地、中部のヒンドスタ平原、南部のデカン高原に分る。ヒマラヤ山脈は、世界の最高峰エベレスト等の高山を起し、到る所に氷河を有す。ヒンドスタン平原は、ガンガ(ガング)ブラマプトラ(ブラマプトラ)印度(印度)は、

(ダイス)即ち印度三大河の流域にして、西部の沙漠以外は、地味肥沃實に印度第一の農産地なり。デカン高原は、東ガッツ、西ガッツ兩山脈間の熔岩臺地にして、綿作頗る盛なり。

ガンガ河は、ヒマラヤ山脈の南に發し、西藏より來れるブラマプトラ河と會し、大三角洲を作り

てベンガル灣に注ぐ。インドス河も、西藏より來り、

パンジブ州の諸川を併せてアラビア海に入る。

氣候

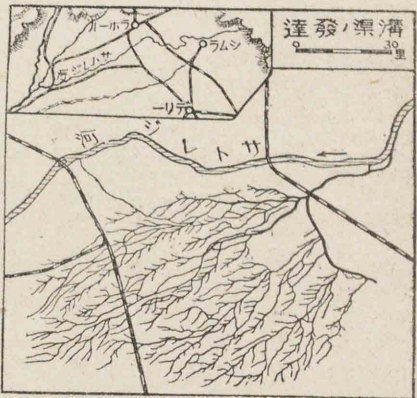
熱帶・亞熱帶の地なるが故に、酷熱多雨にして、生物の生育よく、猛獸毒蛇棲めり。

四五兩月の熱季より、六月乃至九月の雨季に入らば、南西季節風發達して、霖雨又は驟雨苦熱と共に來り、官吏・商人等をして、ヒマラヤ山地等に避暑せしむ。但し此の雨季の後、ことあらんか、旱魃飢



毒蛇ヲラゴとそら印の度人

×五河の義
印度には獅子・虎・豹・犀等の獸類と大蛇・鱉・コブラ等の動物あり従つて猛獸の爲年々害せらるゝもの十萬人の多きに達す
アラマプトラ河下流のアサム州は世界最多雨の地にして一々年の雨量一萬二千五百耗



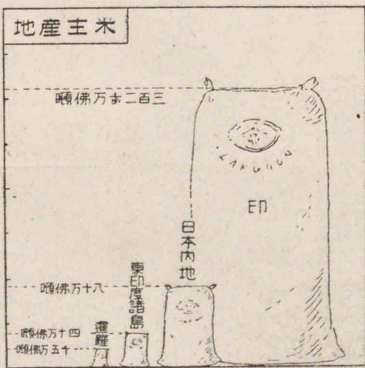
僅を來たすが故に、印度には、多く溝渠を穿てり。十月以後の乾季は、北東季節風發達して、晴天打ち續き、印度に於ける最良の時期たり。

第二節 人文誌

産業 農業の發達著しくして、米麥・甘

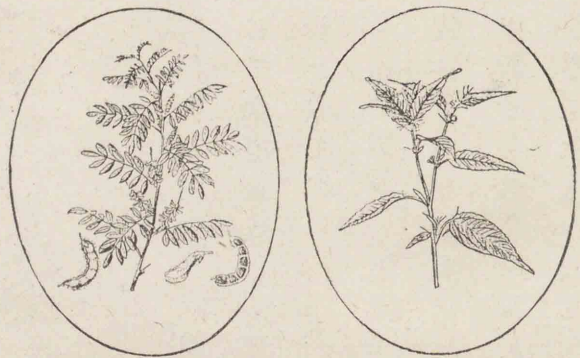
蔗・煙草・黃麻・藍

綿・罌粟茶の産多く、牛馬・水牛・象等の飼育盛にして、象は耕乘等に供せらる。林産は、チーク・榕樹・竹等多く、鑛産には、石炭・鐵等あり。工産は、僅に綿絲織物・紙・麥酒等に止りて、英吉利等より輸入を仰ぐこと多し。貿易は、亞細亞洲の首位に位し、カル



復航の時は、
を省略

葡領部(ゴア等)
佛領部(ボンザン
リ・シンデルナ
ゴル・カリカル等)
ヒマラヤ山中のネ
パール・ブータン
は英國の保地



藍木と麻黄

カッタ・孟買・マドラス等盛大を極む。

交通 道路・鐵道・河川・運河等の交通機

關發達し、殊に鐵道の延長(餘哩)は、本洲に比類なし。海運は、主に英日船之に當り、頗る發達せり。殊に我が航運上の勢力は、漸次、英國のそれを蠶食しつゝあり。

日本郵船會社カッタ航海路
橫濱・神戸・門司・香港・新嘉坡・彼南蘭買

同 孟買航海路
神戸・門司・上海・香港・新嘉坡・マラカ彼南

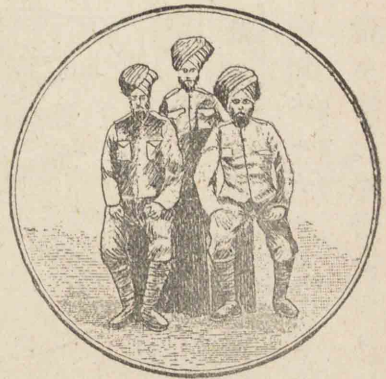
大阪商船會社孟買航海路
古倫母(復航は往々中古林)孟買
神戸・門司(又は三池)香港・新嘉坡・ポーツス
サエッテン・ハム・彼南・古倫母孟買

政治 葡領佛領獨立部あれども、域内の殆ど大部は英國に屬し、

緬甸・ベルチスタンと共に、印度帝國と稱せられ、英吉利國王、其の皇帝を兼ね、總督を、デリーに派遣せり。而して地方は、直轄部と數多

×主要なるもの四十餘ありてハイダラバード侯國殊に大なり

×憐愍の波羅門教孟買附近のパーシ教徒は鳥葬として死體を鳥葬場に運びて鷲に食はしむ



印度人

の藩部[×]とに分る。

住民

支那に次ぐべき世界第二の多人國にして、印度族^{（インドア種）}大部を占め、南部に、ドラビダと稱する土人あり。抑も印度族は、梵語^{（サンスクリット）}を使用し、早婚の弊風を有し、印度教を信じて、僧族、士族、平民、奴隸の

四階級を嚴守し、靈魂の輪廻^{（サマサ）}を信じて水浴齋戒し、悚然^{（ソムヤ）}たる難行苦行を敢てす。

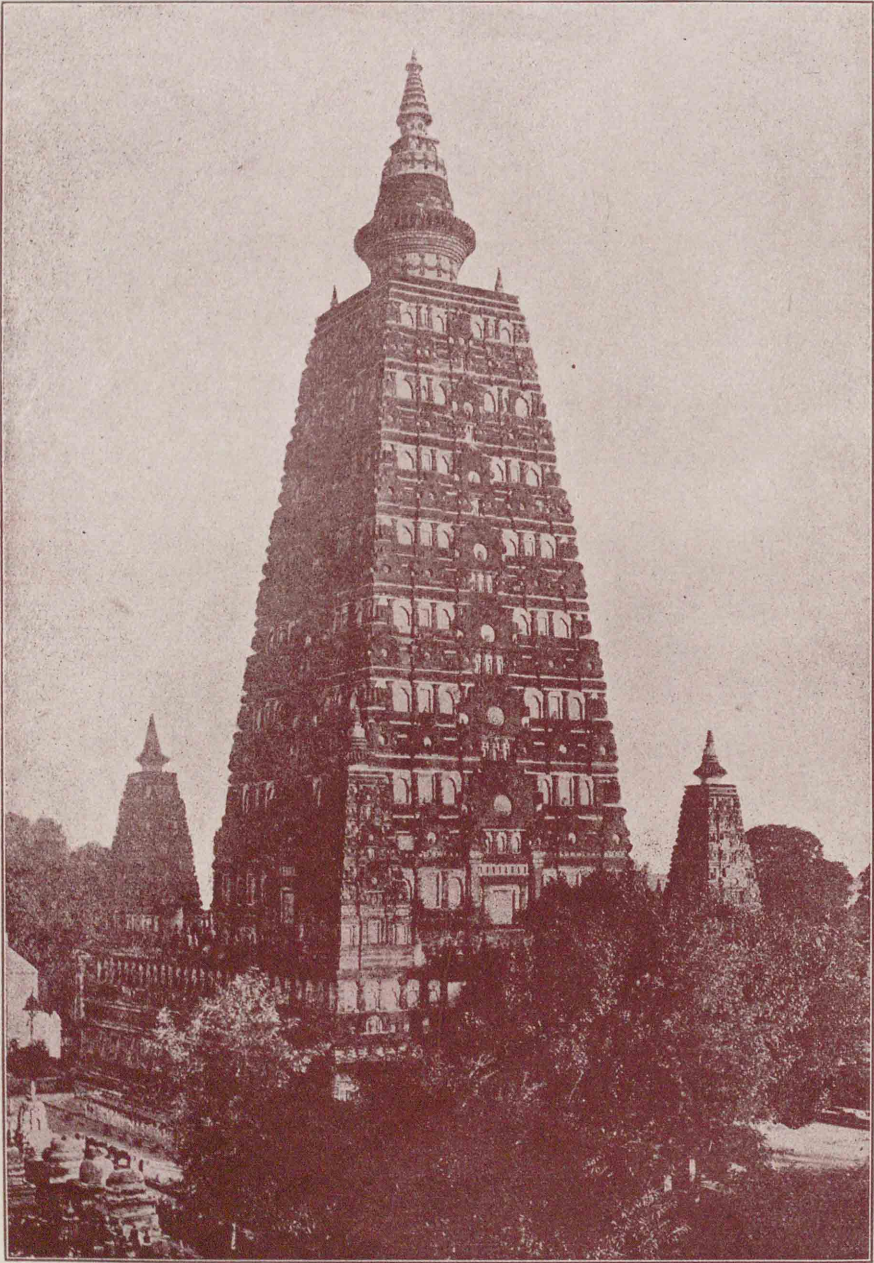
日・印の關係

印度^{（天竺）}は、佛

教の本地として、我が國民の崇敬せし處、今は我が國に、印度の留學生を見るに至れり。抑も日



印度族の苦行 (世間の手を上げよ、下は守る能く)

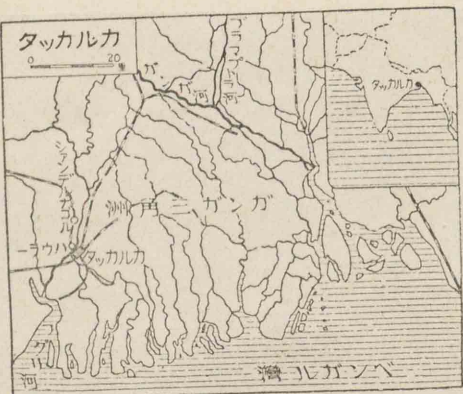


ヤガダの塔

カルカッタの北方なるダーシリンカはシムラと共に好避暑地たり

×年々三百萬人に上る

アグラに宏大華麗世界無比の稱ある大寺院あり



英同盟の範圍は、本地方の平和維持をも含み、貿易も亦盛大を極めて、我が國は、カルカッタに總領事館、孟買に領事館を置けり。

第三節 地方誌

カルカッタはガンガ河下流の大三角洲上に位して、黃麻製品、茶、木藍の輸出多く、東洋第一の貿易地なり。ガンガ河中流の**パトナ**は阿片米の取引多く、其の南方に、釋迦悟道の地たる**佛陀伽耶**あり。ベナレスは印度教の寺院、大小一千五百餘ありて、四方より雲集せる教徒、凄慘たる苦行をなし、又水浴齋戒場(卷頭挿 繪参照)、ガンガ河岸に設けらる。**アグラ**は、鐵道の大中心、綿米、砂糖、煙草の市場なり。首府**德里**は、總督シムラは、ヒマラヤ山

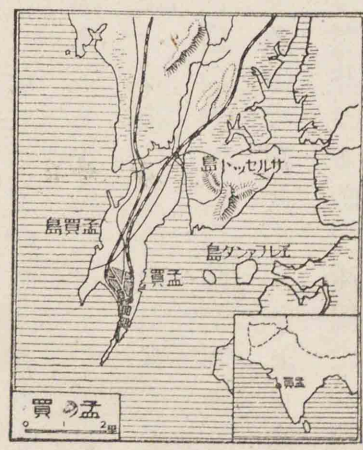
ラホールは交通の要地小麥の集散地シムラは印度總督夏季の駐在地
パシワールはスリナガルの西方に在りて北西の關門をなす

ハイダラバードは回教の繁地にして綿砂糖を身散しマヅラにはヒンズー教の大寺院あり



人商の織アミシカ

と共に、特に綿の輸出多く、ゴアは、葡國の東洋活躍の遺物なり。
錫蘭島は、英國直轄の植民地にして、茶椰子寶石等の産に富み、海濱

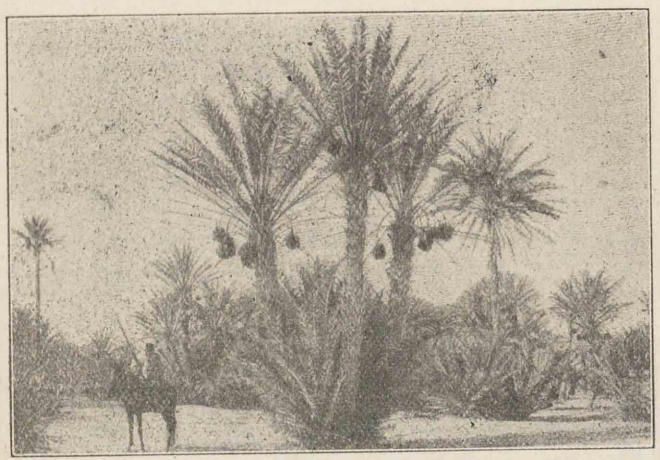


孟買は、
印度第
二の貿易港にして、中古林・マドラス

腹に在る好避暑地なり。宜なる哉モガル帝が、印度を奪はるゝも、シムラを失ふを欲せずと云ひしことや。
スリナガルはカシミヤ織の産地、カ

印度半島錫蘭島間にはアダム橋と稱する珊瑚礁連れり其の南西のマナール海には眞珠の産あり

空氣清澄なるが爲望遠鏡を用ひずして晝間木星の衛星を認め得ると云ふ



椰子

にマングローブ繁茂す。北東岸のツリン・コマリーは、印度艦隊の根據地なり。南西岸の首府コロンボは、人工的の良港にして、東西洋往來の汽船輻輳し、カルカッタ・中古林孟買と共に、何れも我が汽船の寄港地なり。

第五章 伊蘭地方

面積一七萬方里 人口一六〇萬人
隣界印度、亞露、亞刺比亞、印度洋等

地文誌

印度の西隣に位して、北にヒンヅークシエールブルズ二山脈 Hindukush Elburz
東にスリマン山脈あり。平均四千尺 Sulaiman
の高原にして、内部に沙漠・鹹湖散在せり。氣候は、大陸性にして天空清澄を極め、世界最熱地の一たり。

人文誌

住民の大部は、回教徒の伊

阿富汗斯坦と印度との國境にハイマ一越の險あり

ヘラット・カンダハルは阿國の名邑、波斯のイスバハンは舊都、タプリーズは波斯の貿易地、アシルは海港

蘭族にして、農牧を業とし、棗椰子、阿片(波)、毛氈(上)を産し、政治上、阿富汗斯坦、ベルチスタン、波斯の三部に分る。

阿富汗斯坦 英國保護下の獨立王國にして、カブールを首府となす。Beluchistan 大部は印度の一州にして、ケタに、印度の派遣官駐在す。小部は、英國保護下の諸部にして、ケラットに在る酋長優勢なり。

波斯 獨立王國にして、形式上立憲政體たり、露獨二國の勢力加はりしも、今後は、専ら英國の勢力盛なるべし。エルブールズ山麓の首府テヘランには、壯大なる宮殿あり。

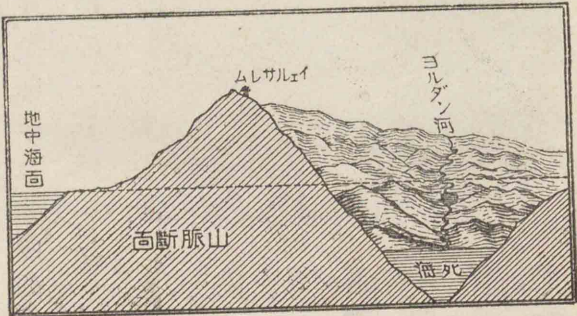
第六章 南西亞細亞 第一節 地文誌

面積 三九萬方里 人口 二〇〇〇萬人
隣境 伊蘭地方、亞露地、中海、紅海、印度洋等

本洲の南西端を占め、一般に高原性にして、北西部に、數箇の山脈あり。亞刺比亞は、世界の最大半島にして、地形、風土等、阿弗利加に酷似し、内地に大沙漠亙り、沙漠中には、所々に泉地散在せり。此の半島

チケリス・エウフラト二河は合してシフトエルアサア河となり、メルシア灣に注ぐ
小亞細亞高原中にタウルス山脈あり

以外には、メソポタミア平原と、アルメニア・クルヂスタン、小亞細亞・シリアの四高原とあり。
メソポタミア(中間)平原は、チグリス・ニウフラト兩河の流域地方にして、昔時、バビロニア・アッシリア等文明國の起りし處、今は荒涼不毛な

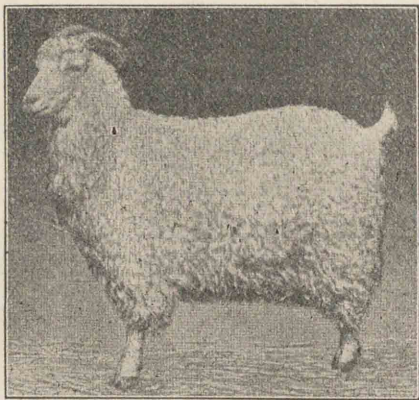


死海水面に於てを讀む

死海は水に入るも沈むことなし

獨逸は世界大戦前に於ては小亞細亞の綿作にて成功しつゝありき

るが故に、二河の水によりて開墾せられんとす。
シリア高原は、地中海沿岸の狭長地方にして、フェニキア・ユダヤ二國のありし處、リバノン山脈相連り、之と並びてヨルダン川流れ、以て死海に注げり。
死海は、世界の最窪地(海面下一千里三百尺)に湛へ、鹽分多くして魚類棲息せず。氣候は、北西部以外は大陸性にして、殊に亞刺比亞は、世界最熱地のひと稱せらる。



羊山ラゴニア

農業・林業中、生絲・煙草(以上舊)・珈琲(ニア)及び棗椰子等の果實は、産額稍多し。牧畜榮えて、小亞細亞高原のアンゴラ山羊、亞刺比亞半島の馬駱駝著はれ、波斯灣に、眞珠の産あり。交通中、バグダード鐵道と、之より分岐してメヂナに至

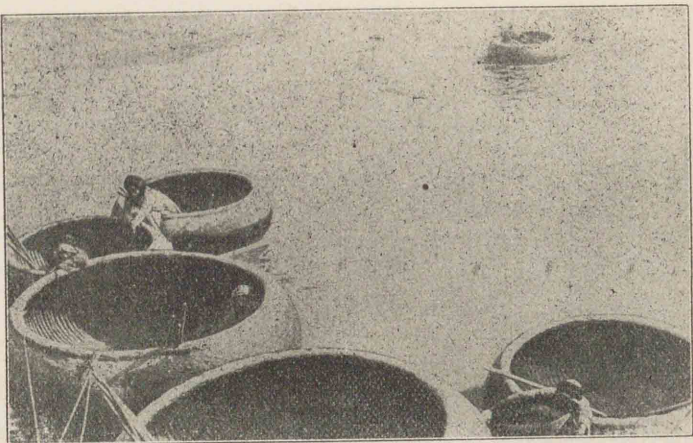
第二節 人文誌

×ヘジラス鐵道

*外部をアスファルト等にて塗る

土耳其族は土耳其帝國アラブ族はサラセン帝國を創建したり

×首府はムスカット



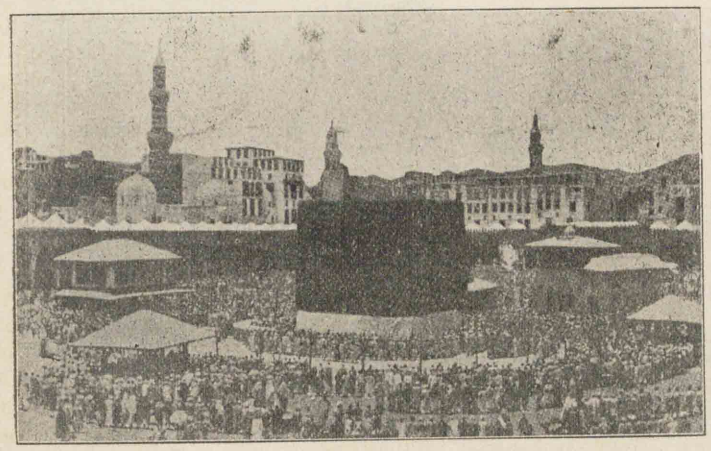
船圓の河スリグチ

る鐵道とは、世に有名なり。殊にバグダード鐵道は、主に獨逸の經營に係り、ボスポロス海峽岸に起り、バグダードを経て波斯灣頭に出でんとし、其の大半は既に落成せり。チグリス河の下流に在る樹枝製の圓船は、渡河用の特種機關たり。住民は、回教徒の土耳其族アラブ族最も多し。今や國際聯盟は、歐亞間狹水路の兩岸地方を管理し、希臘はスミルナ地方、佛國はシリア、英國はメソポタミアの委任統治をなし、アルメニア、猶太、ヘジラス(亞刺比亞)の三國樹立することゝなれり。從來英國は、亞丁を領し、南東岸のオマーン王國

を保護せしが猶太へジラス二新國にも勢力多し。

第三節 地方誌

ジッダはメッカの
外港にして上陸す
る巡拜者多し



メッカ參詣者の回教徒

亞・丁^{Auen}は土地礮^{カク}礮^{カク}飲料水乏しきも、^{Be}バ
ブ^{el Mandeb}エルマンデブ海峡の門戸を扼し
て、東西交通の要地に當り、好箇の貯
炭所、英國艦隊の根據地たり。モカ^{Mocha}
は、世界最良の珈琲產地なり。メッカ^{Mecca}
は、ムハメドの生地にして、メヂナ^{Medina}は、
其の墳墓の地なり。回教參詣者頗る
多きが故に、鐵道アレppo^{Aleppo}より起りて
メヂナに至り、早晚メッカに達せんと
す。イェルサレム^{Jerusalem}は、キリストの墳墓
の地、ベテレ^{Bethlehem}へムは其の生地にして、

×世界最古の都會
と稱せらる
バスラはメソポタ
ミア平原の門戸
バグダードの南方
エウフラト河岸に
バビロンの城址チ
グリス河上流のモ
スル附近にアッシ
リアの舊都ニメア
の址あり
×ハイダルバシア

西比利亞の面積は
我が國の約十九倍
北極洋方面にヤル
マル・タイミルニ
半島オアブあり
×クリウチエフ火
山は高さ五千米
白令海の北に白令
海峡ありて新舊兩
大陸接近せり

共に巡拜者絶えず。×^{Damascus}ダマスクは、隊商の發着地にして、^{Beirut}ベイルトを
外港とす。チグリス河左岸の^{Bagdad}バグダードは、回教國の舊都にして、
壯大なる建築物多く、隊商の來集多し。^{Smyrna}スミルナは、地中海の良
港、本城第一の貿易港にして、乾葡萄酒の輸出多く、移住希臘人多し。ポ
スポロス海峡岸の^{Sofia}スクタリは、コンスタンチノブルの一部をなし、
近郊より^{Constantinople}バグダード鐵道起れり。

第七章 亞細亞露西亞

(甲) 西比利亞

面積一萬方里 人口九〇〇萬人
隣界太平洋 日本北極洋 歐露中亞細亞 伊蘭地方

地文誌

亞細亞洲北部の大平原にして、西にウラル山脈、南にアル
タイ・サヤンの二山脈と黒龍江、東部にヤブロノイ・スタノ・ボイ・シホ
タの三山脈あり。カムチツカ半島は、白令海とオホーツク海とを
分ち、火山頗る多く、其の脈、千島列島に相連れり。域内、自ら南東部
の高地帯、北部の凍土^{フン}凍土^{フン}帶、中部の森林帶、南西部の草野帶に分る。河

*滿洲里と綏芬河
×馴鹿馬犬をして
牽かしむ犬は天候
を豫知し大風雪來
襲時の如き急に穴
を穿ちて旅人と共
に其の難を免かる
*ツングーズ蒙古
土耳其ギリアーク
サモエド等の諸族
あり其のサモエド
人最も多く馴鹿を
牧す
△北樺太 沿海
州・カムチャツカ州
黒龍江州・外バイ
カル州・ヤクーツ
ク州・イルクツク
省・イニセイスク
省・トムスク省ト
ホルスク省
我が國はサガレン
州(北樺太を含む)
を一時占領す

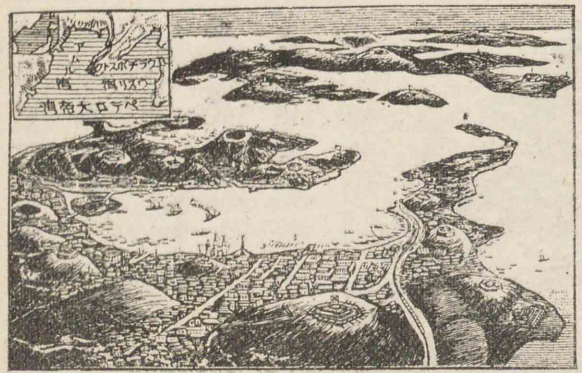
リスクとカリムスカヤとに起るものは、東支鐵道に連絡せり。西
比利亞の交通機關には、尙ほ馬車橋等あり。
住民 土人は、百餘萬人に止まり、概ねシャーマン教を奉ず。住民の
大部は、基督教の歐洲人なり。こは配流の囚人のみなりしが、良民も
漸く移住し來り、西比利亞鐵道の開通以來は、特
に増加したり。政治 露西亞は、十六世紀の末
頃より、漸次本域を蠶食したり。本域は、沿海黒龍
江地方、東部西比利亞、西部西比利亞に分れしが、
今は政治の中心なくして混亂せり。
日本との關係 西比利亞は、日本との距離近く
して、政治交通貿易の關係、年に緊密を加へ、特に
東海岸の漁業につきては、日本人の經營努力著
しく、左の諸地に、我が領事館あり。



黒龍江下流附近の日本船

ニコライスクは浦鹽
斯德の北に在る交
通の要地なり

ナタは外バイカル
州の首府
ヤクーツクは毛皮
象牙の集散地



浦鹽斯德

地方誌 浦鹽斯德は、露西亞極東の大港にして、ペテロ大帝灣に臨
み、露國東洋艦隊根據の軍港にして商港をも兼ね、シベリア鐵道の
東起點にして、我が諸港と定期汽船を通
ず。冬季は、港灣氷結するが故に、碎氷船の
設備あり。ハバロフスクは、黒龍江蘇里
二江の會點に位し、政治交通商業の要地
なり。黒龍江下流の尼港は、七百の皇軍
の慘死せし處、我が漁船來集す。ペトロ
パウロフスクはカムチャツカ半島アレク
サンドロフスクは樺太島の要都なり。
黒龍江中流のブラゴベシチンスクは、西

浦鹽斯德(總) ハバロフスク
ニコライエフスク
ベトロパウロフスク
ブラゴベシチンスク
イルクツク
オムスク
地方誌 浦鹽斯德は、露西亞極東の大港にして、ペテロ大帝灣に臨
み、露國東洋艦隊根據の軍港にして商港をも兼ね、シベリア鐵道の
東起點にして、我が諸港と定期汽船を通
ず。冬季は、港灣氷結するが故に、碎氷船の
設備あり。ハバロフスクは、黒龍江蘇里
二江の會點に位し、政治交通商業の要地
なり。黒龍江下流の尼港は、七百の皇軍
の慘死せし處、我が漁船來集す。ペトロ
パウロフスクはカムチャツカ半島アレク
サンドロフスクは樺太島の要都なり。
黒龍江中流のブラゴベシチンスクは、西

イニセイ河畔の
クラスノヤルスク
は砂金採取の中心
地
トボルスクは舟運
の要地

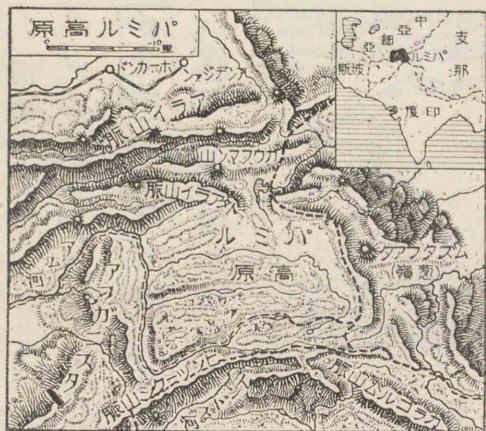
比利亞鐵道の支線通じ、附近に金産地を控へ、上流のネルチンスクも、亦鑛業の中心をなす。ハク圖は、蒙古の買賣城と相接す。バイカル湖西のイルクツクは、シベリア屈指の大都會にして、政治交通商業の要地なり。トム河畔のトムスクは、シベリア鐵道の支線通じ、大學、博物館等あり。バルナウルは、古來、有名なる鑛業地なり。

〔乙〕 中亞細亞

面積 二五萬方里 人口 一〇〇〇萬人
隣界 支那、西比利亞、歐露、海、伊蘭、地方

地文誌

地勢上、南東山地と北西曠野とに分る。南東山地には、パミル高原天山山脈あり。パミル高原は、平均高度一萬五千尺にして、亞細亞山脈の中心をなす。北西曠野は、一大低地にして、鹹味ある沙漠又は草野互り、アラル



* 寂寥の義

* 嘗て一大海底なりし

* 八十五呎

* クラスノボドスク及びウズンアダ

* 近時の騒亂に一時政治の一中心と

海、バルハシ湖湛へて、一はアム・シル二河を收め、一はイリ河を入る。西境の裏海は、世界の最大湖にして、海面下に湛へ、鮭、鱒魚等を産し、舟運の便亦大なり。氣候は、大陸性にして、寒暑共に強し。

人文誌

綿生絲果實を産し、殊に綿の産額は、世界屈指なり。牛馬羊駱駝の飼養盛にして、世界三大牧地の一に數へらる。河湖中には、汽船航行の便あるものあり。鐵道は、外裏海中亞細亞の二線ありて、軍事交通農耕に便す。前者は、裏海の東岸に起り、サマルカンドを経て新疆に入らんとし、中途メルフにて、阿富汗斯坦の境上に支線を送れり。後者は、オレンブルグ(露)に起り、タシケンドに達して、外裏海鐵道の支線に合す。住民は、土耳其、キルギス等の亞細亞人種多くして、回教を奉じ、農牧に従事す。政治は、近年、其の中心、不定となりて混亂せり。域内に、ボハラ・ヒバの二汗國あり。

地方誌

西比利亞鐵道に沿へるオムスクは、毛皮、羊毛の市場なり。

なり我が公使派遣せられたり其の附近は農産多く西比利亞の穀倉と稱せらる
ホハラ・ヒバの二會長國には各々同名の都會あり

*ノアの一族洪水の難を免れし處と稱せられ大小二山あり
× 葡萄酒 穀物 茶 絹 布 石油は主要産物なり



山トッラア小と山トッラア大

タシケンドは、絹織製革盛にして、本域の最大都なり。サマルカンドは、英傑帖木兒の故都にして、大なる墳墓及び回教寺あり。

〔丙〕 高加索

面積三萬方里 人口一三〇〇萬人 隣界裏海・歐露・黑海・波斯等

北部の低地以南には、高峻なるカフカズ山脈及び高原亙り、南境附近に、アララト山あり。北部以外は、温暖多雨にして地味肥え、産物豊富なれば、亞細亞歐羅巴兩人種に屬する諸種族來住して、回教・基督教行はれ、中に容貌秀美にして、音樂・舞踏・繪畫に長ずるものあり。

バクーの石油は鐵道及び鐵管に依りてバツームに輸送せらる



較比小大の陸大六

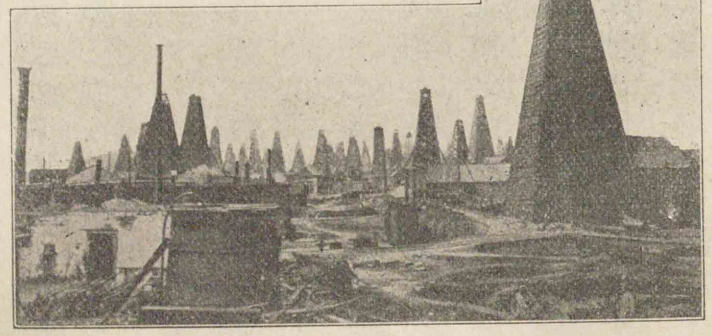
首府チフリスは、總督の駐在地、交通商業の樞要地なり。裏海岸のバクーは、世界第二の石油產地、裏海艦隊の根據地にして、黑海岸の良港バツームは、石油の大輸出港なり。ウラヂカフカズは、カフカズ山脈北麓の要地なり。

第八章 亞細亞洲總括

第一節 地文誌

地域 亞細亞洲は、東半球の

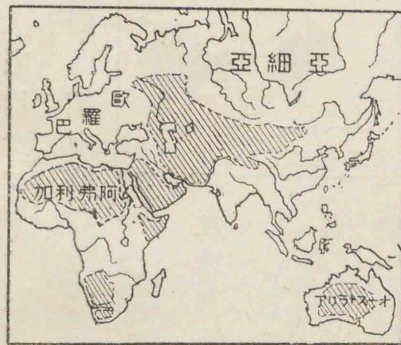
北東部に位して、ユーラシア大陸の大部を占め、東北南は大洋に面し、西は、ウラル山脈・ウラル河・裏海・黑海・地中海



槽井油のーグバ

*ヒマラヤ・外ヒ
マラヤ・崑崙天山
阿爾泰・サヤン・ヤ
ブロンイ・スタノ
ボイ・ヒンヅ・グ
シ・エルアールズ
カフカズ・タウル
ス・スリマン
南嶺印度支那二山
脈は崑崙山脈に屬
せずともせらる

*オプ・イニセ
イ・レナ *黒龍江
鴨綠江・遼河・漢河
白河・黄河・揚子江
閩江・珠江・ソッコ
イ河・メコン河・メ
ナム河△サルウイ
ン・イラワザ・アラ
マプトラ・印度・チ
グリス・エウフラ
ト
*青海・テンリ湖
バルハシ湖



世界主要内陸地帯

海・スエズ地峽及び紅海によりて、歐羅巴洲又は阿弗利加洲と界す。面積約二百九十萬方里、六大洲中の首位に在り。
山地 パミル高原を中心として、諸山脈、五方に輻走せり。就中崑崙山脈の末は、北東して陰山々脈、興安嶺山脈となり、又南東して北嶺、南嶺、印度支那(は縦貫又は雲嶺)の諸山脈となる。
河湖 大河流は、多く源を中央の高地に發して三大洋に分流し、雙子河の多き缺點あり。北極洋斜面に三、大河、太平洋斜面に大小數流あり。印度洋斜面にも、亦數條の大河あり。西部支那以西に多き内地灌域には、イリタリム・アム・シル・ウラルの諸川と、裏海・アラル海・ロブ湖・死海等の鹹水湖あり。本洲の淡水湖は、バイカル湖・洞庭湖・鄱陽湖等著はる。

*蒙古・デカン・伊
蘭・亞刺比亞・アル
メニア・クルヂス
タン・小亞細亞

高原・盆地・平原・窪地

パミル高原、世界最高の西藏高原を始めとして、本洲には高原多し。新疆にタリム、支那本部に四川の盆地あり。西比利亞平原は、最も大なれども、滿洲支那、印度に在る平原の如くには、農耕發達せず。死海裏海の附近には、凹窪地あり。

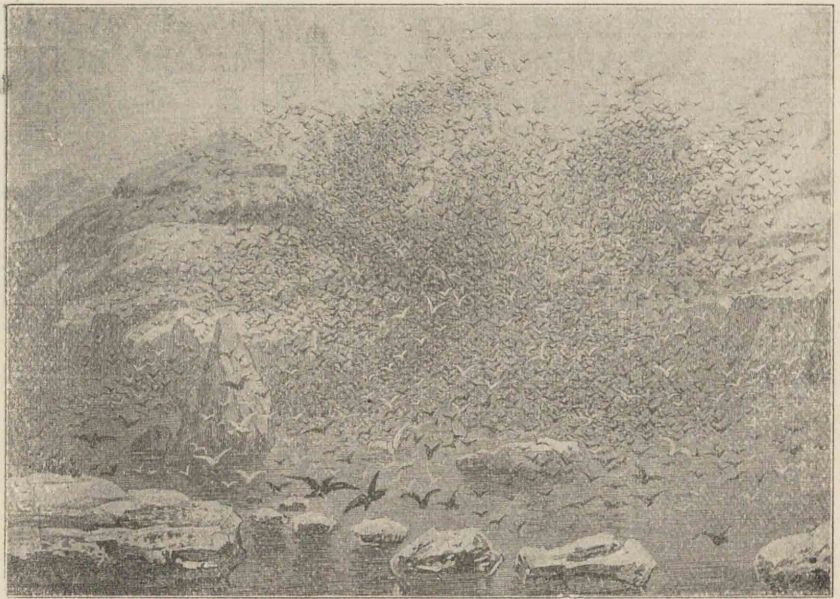
海岸

北極洋方面は、出入少なき上に、海面常に氷結するが故に、殆ど用をなさず。白令海峽より、太平洋方面に出づれば、白令海カムチツカ半島あり。半島の南端より、防波堤狀の日本列島羅列して、オホーツク海樺太島、日本海、朝鮮半島、黄海及び東支那海を擁し、其の南方には、印度支那半島、東印度諸島ありて、南支那海を圍む。印度洋方面にては、印度半島、ベンガル灣、亞刺比亞海を限り、又アラビア半島も、ペルシア灣、紅海を限り、西部亞細亞には、小亞細亞半島、黒海、マルマラ海、多島海、地中海間に突出せり。

氣候

本洲は、土地廣大、地勢錯綜せる爲、氣候、特に複雑なり。印

×チエラプンジ



群鳥の面方洋極北

度以東は、季節風發達して、半年間は濕熱甚しく、殊に印度には、世界最多雨の地あり。降雨缺乏、土地荒廢せる中央部、南西部の沙漠地帯は、夏熱、冬寒、何れも酷烈を極め、大陸性氣候の特色を發揮す。北部大平原には、地下數十尺迄凍結する凍土帶さへありて、世界最寒地の一たる處あり。東部と地中海沿岸地方とは、海洋性氣候にして、雨量

×米、麥、茶、煙草、
甘藷、綿、薩藤

亦度に適ひ、亞細亞洲中、氣候最も良好なり。

天産

炎熱多雨なる南部には、巨大又は、犛猛なる動物と熱帶性なる植物とあり。主なる有用植物は、南部より東部地方に産す。中部及び南西部の地方には、多く有用家畜を産し、北部地方には、馴鹿、狐、貂、白熊、北東沿海には、臘虎、臘肭獸、海豹棲息す。鑛物は、埋藏少なきにあらざれども、未だ採掘盛ならず。

第二一節 人文誌

産業

農業は、南部より東部にかけて發達し、牧畜業は、支那本部、滿洲の牧豚を除かんか、内地又は南西部の瘠瘦なる地に發達せり。林業は、日本、滿洲



(那支部西)搬運の茶磚

印度支那・印度に稍榮え、西比利亞の森林は、十分に伐採せられず。水産業は、日本以北に榮え、鑛業は、日本・ウラル山地支那に稍盛なるのみ。工業・商業は、日本・印度・支那に盛なり。

交通

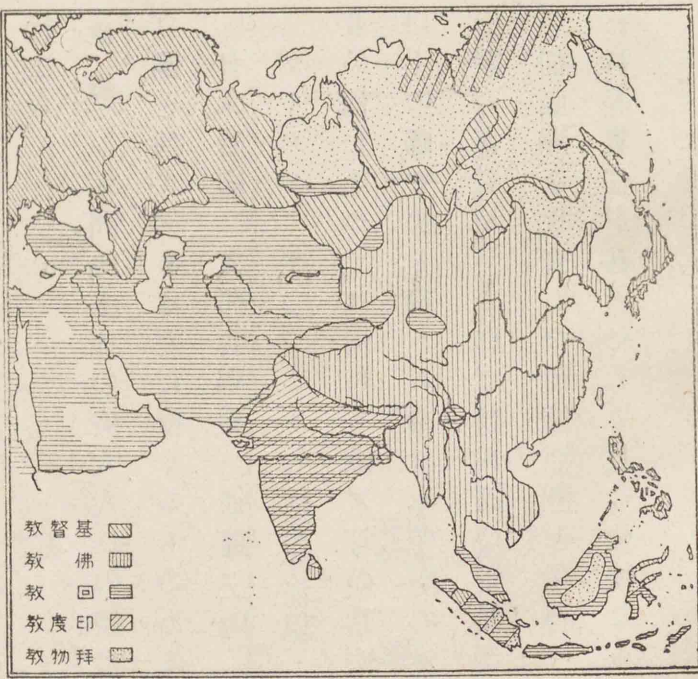
一般に、東西の交通は、南北のそれに勝れり。西比利亞鐵道と、延長多き印度の鐵道とは、最も注意すべし。日支の鐵道も、亦漸次延長し、中亞細亞・南西亞細亞には、各注意すべき二鐵道あり。河川は、雙子系のもの多きも、揚子江の如き、水運の利大なり。海運は、英國船の勢力最も大なりしも、今は日本船之に代るに至れり。

住民

住民の總數は、無慮八億に餘るべく、日本・支那・印度以外は、密度稀疎なり。最も多數を占むるは亞細亞人種にして、主に中部以東に住す。之に次ぐは歐羅巴人種にして、南部・西部に住す。但し西部の土耳其族は、亞細亞人種なり。馬來半島・馬來群島は、其の名の如く馬來人種多し。東部の住民は、農工商を營み、學術・技藝を勵み、

*東印度群島

學理の應用、機械の使用著しく、衣食住亦高尙なれども、其の他の地方の住民は、農牧相半ばし、中には、天幕を張りて遊牧を營む者あり。



亞細亞・高加索以南及び馬來人種の住地に行はれ、印度も稍盛なり。

基督教は、今や隆盛に赴かんとするもの、如く、支那には、道教、儒教行はる。

政治 本洲は、土地の廣大、人口の饒多、六大洲中に冠絶するも、獨立國と稱すべきは、左に掲ぐるものあるのみ。

日本帝國 支那共和國 暹羅王國 波斯王國 (以上獨立國)

ブータン ネパール 阿富汗斯坦 オマーン (以上半獨立國)

其の他に至つては、何れも歐米等の諸國に隸屬せざるはなし。否、以上の獨立國も、獨り我が日本帝國の外は、何れか強國の勢力、壓抑を蒙らざらん。されば我が國は、亞細亞の東端に偏在しながら、全亞細亞洲を代表し、全亞細亞洲を指導すべき地位に立てり。是れわれ等責任が、甚大にして且つ愉快なる所以にあらずや。

主要名詞索引

(上卷之部)

主 要 名 詞 索 引

主 要 名 詞 索 引

上卷之部

(數多の國所に散在せるものは普通の全讀み又は一部を省)
(略せり)

【ア の 部】

<p>愛 璣 Aigun 14</p> <p>ア アgra 55.</p> <p>ア ア Assam 51.</p> <p>ア ア (亞細亞)洲 Asia 17- 78.</p> <p>亞細亞露西亞 Asiatic Russia 63; 71</p> <p>ア ア (亞丁) Aden 61. 62.</p> <p>亞 東 Yalang 38.</p> <p>ア アガニヌヌン (阿富汗斯坦) Afghanistan 58.</p> <p>ア ア カ Africa 72.</p> <p>鴨 江 Yal-kiang 4.</p> <p>阿 片 23. 58.</p> <p>ア ア Annu Darja 69. 72.</p> <p>ア ア (黑龍江) Amur 63. 64.</p> <p>ア ア (廈門) Amoy 34.</p>	<p>亞 亞 Arabia 58. 60.</p> <p>亞 亞 刺 比 亞 海 51.</p> <p>亞 亞 刺 比 亞 半 島 58. 60.</p> <p>ア ア ア ア 族 Arabs 61.</p> <p>ア ア ア ア ア 山 Ararat 70.</p> <p>ア ア ア ア 海 Aral 68. 72.</p> <p>ア ア ア ア (亞爾泰) 山脈 Altai 63. 65.</p> <p>ア ア ア ア (亞爾美尼亞) Armenia 59.</p> <p>ア ア ア ア (亞歷山大) Alexandrovsk 67.</p> <p>ア ア ア ア 省 Ngan-hwéi 25.</p> <p>ア ア ア ア 山 Angora Goat 60.</p> <p>鞞 山 An-shan-dian 6.</p> <p>ア ア 東 Anlung 7. 11. 16.</p> <p>ア ア 南 Annam 40.</p> <p>ア ア 線 6. 11.</p>
--	---

【イの部】

イ ー ナ ヲ (宜昌) I-chang 33.
 イ エ ニ セ イ 河 Yenisei 64.
 イ エ ル サ レ ム Jerusalem 62.
 威 海 衛 Wei-hai-wei 19, 29.
 渭 水 Wei-shui 17.
 一 輪 車 22.
 イ ラ ニ ア (伊蘭)族 Iranians 57-58.
 イ ラ ヲ サ 河 Iraxwadi 39, 44.
 イ 蘭 高 原 Iran 57.
 イ 蘭 地 方 57, 58
 イ 梨 Ii (Kuldja) 37.
 イ 梨 河 Ii 37, 72.
 イ ル ク ツ ク Irkutsk 68.
 イ 山 山 脈 In-shan 72.
 印 度 India 50, 57
 印 度 支 那 Indo-China 38-44
 印 度 支 那 山 脈 17, 38.
 印 度 支 那 族 39.

イ ソ フ ス 河 Indus 51.
 印 度 族 Hindus 54.
 印 度 平 原 Hindustan 50.
 印 度 洋 Indian Ocean 50.

【ウの部】

吳 淞 Wu-sung 30.
 内 蒙 古 Inner Mongolia 35, 36.
 浦 鹽 斯 德 Vladivostok 67.
 ヲ ラ ガ フ カ ズ Vladikavkas 71.
 ヲ ラ ル 河 71, 72.
 ヲ ラ ル 山 脈 Ural 63, 65, 71.
 ヲ ル ガ (庫 倫) Uрга 38.
 雲 南 Yun-nan 33.
 雲 南 省 25.
 雲 南 鐵 道 33.
 營 口 Ying-kou 6, 11, 16.
 營 線 6.

【エの部】

英 領 印 度 支 那 British Indo-China 40.
 英 領 海 峽 植 民 地 Straits Settlements 40, 43.
 エ ヲ フ ラ ト 河 Euphrates 50.
 粵 漢 鐵 道 32.
 エ ベ レ ス ト 山 Everest 50.
 エ ル ア ー ル ズ 山 脈 Elburz 57.
 煙 臺 Yen-tai 5.

【オの部】

オ ー シ ス (泉 地) Oasis 58.
 オ 河 Ob 64.
 オ ヲ ー ン Oann 61.
 オ ヲ ス Oask 69.
 オ レ ソ フ ル ガ Oenbourg 69.
 オ ロ ソ ガ Olangpo 49.

【カ、ク、ケの部】

海 南 Hai-nan 19, 35.
 海 蓋 Kai-ping 11.
 海 關 Kai-fang 18, 30.

海 洋 島 9.
 開 港 港 21, 27.
 龍 梁 16.
 九 龍 龍 Kaulung 26, 35.
 九 龍 半 島 26, 35.
 岳 州 Yo-chau 33.
 カ シ ミ ガ ル Kashgar 38-
 カ シ ミ ア 織 56.
 カ ス ピ 海 Caspian Sea 69.
 河 南 Ho-nan 18, 30.
 河 南 省 25.
 カ ン ー ル Kabul 58.
 カ フ カ ズ (高 加 索) Caucasus (Kavkas) 70-71
 高 加 索 山 脈 70.
 カ ム チ ヲ ツ カ 半 島 Kamtchatka 63.
 和 林 Karakorum 36.
 カ ラ カ ン カ ヤ Karachi 56.
 カ リ ム ス カ ヤ Karinskaya 66.
 カ ル カ ッ タ Calcutta 55.

ス ヲ ト ラ 島 Sumatra 46.
 ス ミ ル ナ Sanyra 63.
 ス ラ バ ナ Soerabaya 47.
 ス リ ナ ガ ル Srinagar 56.
 汕 頭 Swatow 34.
 スレガリ (松任江) Sungan 3.
 スレソダ 海 峽 Sula 44.
 スレソダ 列 島 Sula 46.

【セの部】

西 安 Siangan 18. 30.
 青 海 (地 方) Koko-nor 17. 38.
 青 海 Koko-nor 19.
 盛 京 省 Shing-king 11.
 成 都 Cheng-tu 33.
 青 島 Tsing-tai 30.
 西 寧 Si-ning 30.
 錫 蘭 Ceylon 56.
 小 亞 細 亞 高 原 Asia Minor 59.
 報 局 22.

赤 峰 Chih-fung 15. 16.
 石 油 46. 71.
 浙 江 省 Che-kiang 25.
 セ レ ス 島 Celebes 48.
 川 漢 鐵 道 32.
 千 山 12.
 陝 西 省 Chen-si 25.
 錢 塘 江 Tsiang-tang-kiang 31.

【ソの部】

蘇 州 Si-shan 31.
 外 カ ス セ 鐵 道 Trans-Caspian Railway 69.
 外 蒙 古 Outer Mongolia 35. 36.
 ソ ン コ イ 河 Songkoi 39. 40.

【タの部】

大 運 河 Grand Canal 22.
 タ イ ガ (森 林 帶) Taiga 63.
 太 原 Tai-yang 30.
 太 山 Tai-shan 30.

大 石 橋 11.
 大 平 洋 Pacific Ocean 72. 73.
 大 治 Tayeh 21.
 大 連 Dairen (Talien) 6. 11.
 大 連 灣 8.
 大 南 Taonan 15.
 大 沽 Ta-ku 28.
 タカラ マ カン 沙 漠 Taklamakan 36.
 タシケント Tashkend 70.
 ダマスカス Damascus 63.
 タリム 河 Tarim 72.
 タリム 盆 地 17. 36.
 タワオ Tawao 49.

【チの部】

チ ー ク Teak tree 39. 41. 52.
 チ ー フ ー (芝 罘) Chih-fu 29.
 チェリビンスク Chelyabinsk 65.
 チカリス 河 Tigris 59. 61.
 齊 哈 爾 Tsishihar 14. 16.

地 中 海 Mediterranean Sea 73.
 濟 南 Tsi-nan 30.
 チ ー リ ス Tiflis 71.
 西 藏 高 原 Tibet 17. 37-38.
 西 藏 族 22. 24.
 チムル (帖 木 兒) Timur 70.
 チモル 島 Timor 48.
 テア Tea 20. 52.
 中 亞 細 亞 Central Asia 68-70.
 中 亞 細 亞 鐵 道 69.
 中 帶 平 野 17.
 中 亞 細 亞 鐵 道 17.
 口 Khalghan 29.
 慶 重 Chung-king 33.
 江 島 Chang-shan 9.
 長 山 子 47.
 長 沙 Chang-sha 33.
 長 春 Chang-ehun 6. 13. 16.
 長 白 山 脈 Chan-pai-shan 3.

直隸	省 Peahli	7, 25,
緬甸	嶺	19,
青島	江 Ching-kiang	31,
	島 Tsing-tan	30,
【ツの部】		
通	化	16,
通	江 Tungkiangta	12,
ツ	チヨリ	56,
雅	ン Tuticoin	48,
ツ	リンヨマリー Tineonalee	57,
ツ	ン グーズ族 Tunguses	7,
ツ	ン ドラ(凍土帶) Tundra	63,
【チの部】		
チ	ート(菓)椰子 Date palm	58, 60,
鄒	家屯 Chenchahn	15, 16,
チ	カ ン 高原 Deccan	50, 51,
迪化(烏魯木齊)	Urumsî	57,
鐵	嶺 Tieh-ling	12, 16,

テ	ヘ	ラ	ン	テヘン	58,				
テ	リ	ー	Dahî	53, 55,					
滇	越	畿	道	33,					
天山	山	脈	Tiian-shan	36,					
天山	山	路	36,						
天	山	北	路	36,					
天	津	Tientsin	17, 28,						
テ	ン	湖	Tengri-nor	19,					
【トの部】									
道	支	畿	道	24,					
東	支	道	6, 13, 66,						
洞	庭	湖	Tung-ting-lu	13, 19, 72,					
頭	道	溝	12, 16,						
拘	鹿	鹿	16,						
ト	ム	ス	ク	Tomsk	68,				
ト	ラ	ベ	グ	族	Dravidian	54,			
ト	ラ	ンス	カ	ス	ト	Trans-Caspian	60,		
ト	ラ	ンス	ヒ	ト	ラ	ヤ	山脈	Trans Himalaya	57,
土	其	耳	族	Turks	22, 24,				

東京(地方)	Tongking	40,							
東京(ソコイ)	河	39, 40,							
東京	橋	19, 38,							
【チの部】									
南	京(江 寧)	Nan-king	31,						
南	山	11,							
南	昌	Nan-chang	32,						
南	西	亞	S. W. Asia	58-63,					
南	西	氣	候	South Western Monsoon	51,				
南	南	帶	平	野	17,				
南	南	洋	航	路	40,				
南	南	嶺	Nan-ling	17, 30, 72,					
【ニの部】									
新	ヤ	ネ	ア	New Guinea	45, 48,				
内	豊	越	47,						
ニ	コ	ラ	イ	エ	フ	ス	ク	Nikolajevsk	67,
ニ	コ	リ	ス	ク	Nikolsk	65-66,			
西	カ	ツ	山	脈	Western Ghats	51,			

ニ	ス	ア	Nineweh (Ninua)	63,			
寧	波	Ning-po	32,				
【ネの部】							
熱	ネ	パ	ー	ル	Jehol	15,	
ネ	パ	ー	ル	Nepal	78,		
ネ	ル	チ	ン	ス	ク	Nertchinsk	68,
【ノの部】							
農	農	安	16,				
鐵	江	Nomi	3,				
【ハの部】							
ハ	イ	カ	ル	湖	Baikal	64, 72,	
海	南	島	Hai-nan	19, 35,			
買	賣	城	Mainatchin	36,			
ハ	イ	フ	ク	ン	海防	Haiphong	40,
巴	顏	喀	刺	山	脈	Bayan-kara	38,
ス	バ	カ	ー	Baki	71,		
白	河	Pai-ho	17, 28,				

パカグー Paghud 63.
 パグデー 鐵道 61.
 パク ナ ム Paknam 42.
 パシ 海峽 Bashi 49.
 パタ ヲ バタビア Batavia 46.
 パツ ヲ バタム Batum 71.
 パナ ナ パナ 55.
 パノイ (河内) Hanoi 40.
 パスロフ スク Khabarovsk 67.
 馬 尾 Ma-wei 34.
 パビ ロ ヲ バビロン Babylon 63.
 パアエルマソナ 海峽 Bab-el-Mandeb 62.
 パミル 高原 Pamir 68, 72.
 白 彦 蘇 ヌ Bayangusu 14.
 パリク スバ ヲ Balikpapan 49.
 パル ナ サ ル Barraud 68.
 パル ハ シ 湖 Balkhash 69.
 哈 爾 濱 Kharbin 6, 13, 16.
 パルマ (緬甸) Burma 40, 43.
 漢 口 Han-kau 18, 32.

漢 江 Han-kiang 32.
 パソコク (盤谷) Bangkok 42.
 萬 里 長 城 Po-yan-lin 18, 72, 27.
 【エの部】
 東 印 度 諸 島 East Indies 44-50.
 東 ガ ヲ ツ 山 脈 Eastern (Hats) 51.
 東 支 那 海 3.
 東 蒙 古 3, 6, 3-16.
 纒 子 高 Pitzuwo 11.
 エ ナ ソ (彼南) Pinang 43.
 エ ナ ソ 島 43.
 エ ヲ ラ ヤ 山 脈 Himalaya 37, 50.
 洋 綱 Ping-tsiang 21.
 エンヅー (印度族) Hindus 54.
 エンヅー ー カシ山脈 Hindukush 57.
 エソフ ス タ ソ Hindustan 50.

【ツの部】

ツ ー タ ソ Bhutan 78.
 ツイビソ (比律賓) 諸島 Philippine 49.
 福 建 省 Fu-kien 25.
 福 州 Fu-chau 34.
 撫 順 順 5, 6, 12.
 撫 綫 6.
 武 昌 Wu-chang 32, 33.
 フ ガ ヤ Buddha-gaya 55.
 佛 教 24.
 佛 領 印 度 支 那 French Indo-China 40.
 フ ノ ソ ヲ フ ノ ヲ Phom-Panh 41.
 フラゴシチヌソ スク Blagoveshchensk 15, 67.
 フラヤナト 河 Brahmaputra 51.
 呼 蘭 Hulang 14.
 汾 水 Fen-shai 17.
 【シの部】
 シーソク (白令) 海 Behring 72.

白 令 海 峽 Behring 63, 72.
 苗 族 22, 24.
 北 京 Peking 17, 29, 62.
 シ テ レ ヲ ベ 大 帝 灣 Peter the Great B. 67.
 シテロソウロフ スク Petropanlovsk 67.
 シ ナ レ ベ ス Benares 55.
 シ ス 新 斯 Persia 58.
 波 斯 灣 60, 61.
 シルチヌタソ (俾路芝斯坦) Baluchistan 58.
 シソソ ガ ル 灣 Bengal 73.
 【ホの部】
 ホイテソソル ク Balienzorg 46.
 法 庫 門 Fakumen 12.
 奉 天 Mukden 12, 16.
 北 極 海 Pei-hai 34.
 北 洋 Arctic Ocean 73.
 北 帶 平 野 17.
 ホクラニエチナヤ (經芬河) Pogranichnaya 6.

北	發	Pe-ling	17, 30, 72			
渤	海	Bohai	17, 19			
ホ	ラ	Bokhara	69			
ホ	ル	Borneo	48			
本	溪	Pen-hsi-hu	5			
香	港	Hong-kong	34, 35			
孟	買	Bombay	56			
孟	航	航 航	53			
孟	買	島	56			
【マの部】							
買	賣	Maintchin	36			
澳	門	Macao	26, 34			
マ	ラ	Madras	56			
マ	ナ	灣	Manaar	57		
マ	ニ	ラ	Manila	49		
マ	ニ	ラ	麻	49		
マ	ニ	ラ	煙 草	49		
馬	蜂	溝	12			
馬	來	群 島	Malay Archipelago	44		
【ミの部】							
馬	來	族	40			
馬	來	半 島	Malay Peninsula	38		
馬	來	邦 邦	Federated Malay States	43		
マ	ラ	カ 海	峽 Malacca	38		
マ	ル	タ バ	灣 Martaban	39		
マ	ソ	カ ッ	サル Mangkassar	48		
マ	ソ	グ	ロー	57		
滿	洲	洲	Manchuria	3-16, 17		
滿	洲	族	22			
滿	洲	平 野	3, 17			
滿	洲	里	Manchouli	6		
マ	ソ	ン	グ	レ	Mandalay	44
滿	蒙	五 大	鐵 道	7, 14		
マ	ソ	ン	モ	ス	牙	65
【メの部】							
南	支	那	海	South China Sea	19, 39	
南	滿	洲	洲	6-16		
南	滿	洲	鐵 道	6-16		
閩	南	滿	洲	江	Min-kiang	24

ミ	ソ	ン	グ	ナ	ガ	Mindanno	49		
【ムの部】										
ム	ガ	ル	(莫	臥	兒	帝	國)	Minghal Empire	55
無						錫	Wu-si	31	
ム	ハ	ハ	メ	ソ	フ	Muhammel	62		
ム	ハ	メ	ソ	フ	教	24, 69			
【メの部】										
メ	コ	ソ	ン	公	河	Mekong	39		
メ	ソ	ホ	タ	ミ	平	原	Mesopotamia	59	
メ						メ	Medina	62	
メ						メ	Mekka	62	
メ	ナ	メ	ナ	河	Menam	39, 41			
【モの部】										
蒙	古	古	古	古	古	Mongolia	17, 35-36		
蒙	古	古	古	古	古	族	17		
蒙	古	古	古	古	古	族	22, 24		
モ						カ	Mocha	62	
【ムの部】										
木						藍	Indigo	52	
モ	ル	ッ	カ	諸	島	Moluccas	47		
【ヤの部】										
揚	子	子	江	Yang-tze-kiang	18				
ヤ	カ	カ	(穆	牛)	Yak	37			
亞					東	Yatung	38		
ヤ	ア	ロ	ノ	イ	山	脈	Yaltonoi	63	
八	幡	製	鐵	所	21				
【ユの部】										
ユ	ー	ラ	ソ	ア	Erasia	71			
順					化	Hue	40		
【ヨの部】										
揚	子	子	江	Yang-tze-kiang	18				
ヨ	ル	ル	ガ	ソ	Jordan	60			
【ラの部】										
雷					州	Lei-chai	19, 35		

老	稿 Laos	40.
洛	水 Lo-shui	17.
拉	薩 Lassa	38.
ラ	ラ Labuan	48.
喇	教	24. 37.
濠	河	15.
ラン	ラン (蘭) Langoon	44.
蘭	領東印度 Dutch East India	46.
【リ の 部】		
裏	(カスビ) 海 Caspian Sea	69.
リ	リ 山脈 Lebanon	60.
龍	井 村	12.
遼	河 Liao-ho	3. 4. 11.
遼	東 半 島 Liaotung Peninsula	4. 19.
遼	東 灣	4. 19.
遼	陽 Liao-yang	12. 16.
旅	順 Port Arthur	9.
旅	順 工 科 學 堂	9.
旅	順 西 港	9.

旅	順 線	6.
【ル の 部】		
ル	ランラ ラン Lang Prabang	40.
ル	ン (呂 宋) Luzon	49.
ル	ビー (紅寶石) Rubies	44.
【レ の 部】		
レ	ナ 河 Lena	64.
【ラ の 部】		
露	西 亞	15.
ラ	湖 Lob-nor	19. 72.
【ク の 部】		
黃	麻 Jute	52.

大正九年一月十五日印 刷
 大正九年二月十三日訂正印刷
 大正十年一月十日改訂印刷

大正九年一月十八日發 行
 大正九年二月十七日訂正發行
 大正十年一月十五日發 行

著作權所有

著 者 東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
 地 理 教 授 同 志 會
 代 表 者 野 口 保 興 守 屋 荒 美 雄

發 行 者 東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
 外 松 荒 三

印 刷 者 東京市京橋區弓町二十五番地
 高 橋 郁

發 行 所 東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
 帝 國 書 院

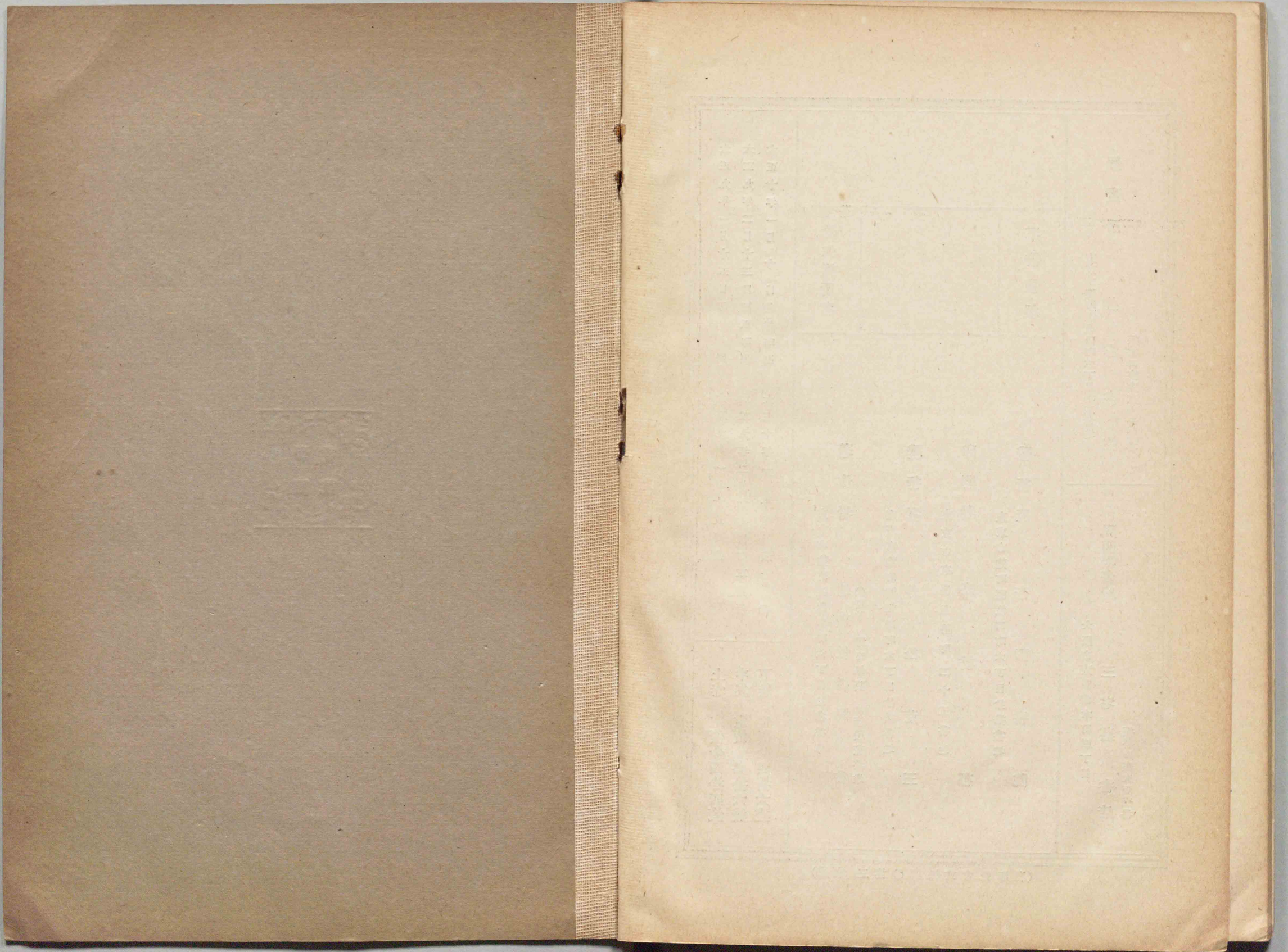
不許複製

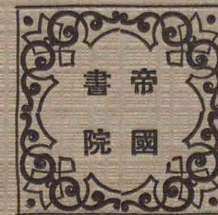
販賣所

東京市麴町區飯田町六丁目拾三番地
 螢 雪 書 院
 振替口座東京三三三九番

關西販賣所

大阪市東區南木町四丁目
 三 宅 莊 藏 書 店
 振替口座大阪九六番





広島大学図書

2000024217

